

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 都地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・年数回開催される都地区連協主催の会議を通して、地区連協・スポーツ振興会・社協の3つの団体の行事日程の調整や協力要請等、都地区として連携して活動が続けている。 ・地区部会の中心である民生委員が、各自治会とのパイプ役を果たしてくれたことで、コロナ禍で会う機会が少ない中でも活動が順調に進んだ。	
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・これまでは活動拠点が定まらないことが長年の課題であったが、今後については、活動の拠点として近隣の自治会館を提供していただくことが可能になり、今後の活動の幅が広くなり、日程調整もスムーズに進んだ。 ・買物支援対策として、“移動スーパー”を毎週実施。徐々に利用者の増加がみられ、将来的には、都地区全体に拡充できたらと考えている。	
	3 見守り体制をつくる	これまで、見守りの対象者は独居高齢者に特化していたが、コロナ禍でこれまでの生活が一変したことにより、新たに見守りが必要な住民の存在を知り、協力員の増員と同時に体制の再構築をすることで強化を図った。	継続して見守り活動を実施するとともに、見守りにおける体制の強化を図り、災害発生時においても円滑な避難等ができるよう努めたい。
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・各自治会の中で、自主防災組織を組織している地域では、年に一度防災訓練を実施している。 ・自治会によって相違はあるが、9月、12月に“防火パトロール”を各一週間程度実施している。 ・都地区では「都小学校避難所運営委員会」が設立されており、各自治会の防災会関係者が結集し、年に一度、避難訓練を実施している。内容としては、DVDによる防災意識の啓発活動や防災資機材の定期点検等を行っている。	
	5 すべての子どもを地域で育てる	・子育てサロン「いちごミルク」を再開した。「芋ほり大会」についても実施した。 ・都小学校主催の「いちようまつり」を開催した。 ・地区でのイベントは徐々に再開している。 ・都小学校の行事についても実施している。 ・民生委員主催で開催していた「みやこお楽しみ会」を3月に実施した。 ・「セーフティウォッチャー」の活動や「こども110番のいえ」の協力等子どもたちの安全を守る環境は整っている。	
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	いきいきサロン(体操教室、手芸教室)を再開した。 70歳以上の独居高齢者を対象とした年末慰問については、面談を行う方式に戻し、例年どおり実施した。	いきいきサロンの実施などを通して、地域高齢者の閉じこもりの防止や仲間づくり・社会参加を図る機会を設け、フレイルの予防に努めたい。
	7 地域での健康づくり支援の充実	・各老人会での活動の違いはあるが、屋外での活動ということで、「グラウンドゴルフ」を継続して実施するとともに、「カラオケ」「お茶会」についても再開した。 ・ラジオ体操は継続して実施している。	
	8 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	(No.5と同様)	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 都地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と仲間づくり	9 子育てサロンの充実	子育てサロン「いちごミルク」を再開した。	子育てサロンの実施を通して、地域の子育て中の親子の孤立化を防止し、仲間づくりの場を設けるよう努めたい。
	10 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・スポーツ振興会主催の行事(運動会、グラウンドゴルフ)を再開した。	
	11 世代間交流の場の提供	・都地区の10町内自治会のうち、都町自治会で盆踊り大会を開催した。 盆踊り大会には他の町内自治会の方が参加するなど、交流の幅が広がっている。	
3 社会参加の推進	12 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・徐々に活動再開に向けて準備を始めており、各分野で活躍する高齢者の方もいる。	
	13 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	施設訪問を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響などから延期となったものの、引き続き訪問について調整を行っている。 また、施設の運営会議に参加し、地域における受け入れ体制を整えるよう調整を行っている。	施設の運営会議参加や施設訪問等を通して、障がいのある方が地域で福祉活動ができる機会を創出し、社会参加ができるよう努めたい。
4 地域の福祉力向上、担い手づくり	14 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・「ふれあい食事サービス」については、「テイクアウト方式」に変更した上で、これまでの年6回実施のうち、年5回実施した。 ・健康セミナーとしては、都町リハイム自治会として実施した。	
5 相談体制、情報提供の場づくり	15 相談体制・情報提供の充実	・民生委員が中心となり、個別に対応している。 ・運営会議を開催し、情報共有を図るなど地域での共通認識を持つようにしている。	
	16 福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	・「都地区部会だより」を年1回発行し、地域の情報と共にコロナ感染対策についても掲載した。	
6 福祉教育の推進	17 地域での福祉教育の推進	・敬老懇親会についてはほとんどの町内自治会で再開した。 ・盆踊り大会については、4か所のうち1か所(都町自治会)のみ実施した。 ・都小4・5年生を対象に、「わくわくキャンパス」で地域住民が協力し、米づくり等の体験指導を実施した。 ・都地区では、年に6回の「ふれあい食事サービス」と併せて、「ボランティア研修会」、「健康セミナー」、「出前講座」等を実施していたが、会食形式のため実施できなかった。ただし、「健康セミナー」については、自治会単位で実施した。	
7 人にやさしい生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・都地区の10町内自治会が、6つの「防犯パトロール隊」を編成し、徒歩によるパトロールを実施している。 ・「こども110番のいえ」のポスターを掲示することで、こどもたちの安心・安全を見守っている。 ・「移動交番」がみやこ図書館に月2～3回開設されている。	
	19 防災体制の充実	(No.4と同様)	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 末広地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・民生委員主体の活動でも、問題が発生した場合、町内自治会と連携して解決する体制が整っている。 ・あんしんケアセンター千葉寺と一緒に開催している「地域ケア会議」を開催した。 ・あんしんケアセンター千葉寺主催で、各町内自治会が参加し、地域課題等について情報共有の場となっている「地域住民、福祉・介護専門職交流会」は、フレイル予防の健康体操として実施した。 ・末広中学校、寒川小学校、PTA、民生委員・児童委員、青少年育成委員会等による会議を実施した。	
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・民生委員が主体となって活動している(外出補助・話し相手等)。	
	3 見守り体制をつくる	・町内自治会ごとに、市から「避難行動要支援者名簿」の提供を受け活動している。 ・見守り活動については、3町内自治会が実施している。1町内自治会では、自治会と民生委員が連携し活動している。	
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・避難所の運営に携わっている避難所運営委員会のスタッフが、9月に倉庫や備蓄品の確認などの訓練を実施した。	地域住民参加型の避難所開設訓練の実施を通して、特に支援を必要とする地域住民が災害発生時においても円滑な避難ができるような地域づくりに努めたい。
	5 すべての子どもを地域で育てる	・寒川小学校、末広中学校の児童・生徒の登下校時に、セーフティウォッチャー活動をしている。 ・子育てサロンを1会場、月1回程度実施した。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。	
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	・いきいきサロンを2会場で月1回程度再開した。 ・老人クラブの活動も再開し、活発化してきている。	
	7 地域での健康づくり支援の充実	・地区部会主催で、グラウンドゴルフ大会を10月に実施し、地区全体の交流を深めた。 ・4町内自治会ごとに老人クラブがあり、グラウンドゴルフを開催するなどの活動を実施した。 ・末広公民館で、週1回、シニアリーダー体操を再開した。	
	8 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・地区部会主催で、グラウンドゴルフ大会を10月に実施し、地区全体の交流を深めた。 ・4町内自治会ごとに老人クラブがあり、グラウンドゴルフを開催するなどの活動を実施した。 ・公民館主催で、子どもを対象としたお菓子づくり教室やバルーンアート教室等のイベントを実施した。	
	9 子育てサロンの充実	・子育てサロンを1会場、月1回程度実施した。	
	10 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・地区部会の障害者福祉委員会とボランティア委員会が、オリーブ亥鼻福祉作業所で毎週水曜日と毎月第3火曜日、ミシンかけやハンガー作り等の作業支援を再開した。 また、心身障害者福祉作業所「青い空」でも月2回、軽作業支援を再開した。	
	11 世代間交流の場の提供	・老人クラブが千葉寺保育園を年1回訪問し、交流を図っている。 ・地区内に新設された2か所の保育園が、地域のお祭り等へ参加し、交流を図っている。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 末広地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
3 社会参加の推進	12 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会や町内自治会等の役員は高齢者が中心であり、各団体の行事等ではスタッフとして各種活動をしている。	
	13 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	(No.10と同様)	
4 地域の福祉力向上、担い手づくり	14 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・いきいき体操の中で、健康に関する講話を実施した。	
5 相談体制、情報提供の場づくり	15 相談体制・情報提供の充実	・民生委員と町内自治会役員が連携して対応している。	
	16 福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	・広報紙を年1回発行している。	
6 福祉教育の推進	17 地域での福祉教育の推進	・寒川小学校4年生を対象に、消防団の小屋の見学と放水体験を年1回実施している。 ・学校からの依頼を受け、地域の歴史を学ぶため、寒川小学校3年生が千葉寺、稲荷神社を見学する際、協力している。 ・いきいき体操の中で、健康に関する講話を実施した。	
7 人にやさしい生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・防犯パトロールを月2回実施した。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。	
	19 防災体制の充実	(No.4と同様)	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 寒川地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・地区部会の役員会で、町内自治会会長、民生委員と情報共有を実施した。	
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・今年度も、ボランティア活動研修会は、会場が狭く、新型コロナウイルス感染が懸念されるため中止とした。	
	3 見守り体制をつくる	・6町内自治会すべてにおいて、災害時要支援者のうち、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動を実施した。	
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・前年度同様に、「災害時要支援者名簿」を更新した。 ・各町会より15名程度の参加にて(総人数100名)、災害時要支援者の避難訓練を実施した。同時に、避難所運営委員会の運営マニュアル確認の訓練及び打合せを行った。 ・避難支援体制の充実のための再確認を行った。 ※地区部会主導で寒川地区6町内自治会合同で、実施マニュアル確認の訓練及び打合せを行った。	災害発生時に備え、「災害時要支援者名簿」を更新するとともに、災害時要支援者の避難訓練等の実施などを通して、災害発生時に円滑な避難ができるような体制づくりに努めたい。
	5 すべての子どもを地域で育てる	・PTA・町内自治会有志・民生委員がセーフティウォッチャーとして、児童の登下校の見守り活動を実施している。 ・寒川保育所の子育てサロンは、例年どおり毎月1回定期的に実施した。 ・寒川小学校の課外授業への参加協力を行った。 ・寒川小学校の「わくわくキャンパス」に地域企業・地域住民が協力した。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。	
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	・今年度は町民館の建て替えなどはあったものの、いきいきサロンを5会場で実施した。	
	7 地域での健康づくり支援の充実	・各町内自治会で、グラウンドゴルフ大会を実施した。また、ボッチャ大会についても、簡易なルールで実施した。	
	8 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・寒川小学校1年生の課外授業で、「昔遊び」を地区部会の委員及び地区の有志により実施した。 ・小学校4年生の車椅子体験については、障がい者委員会が中心となり実施した。 ・社会体育指導員の協力で、地域の野球・サッカー・バレーボール等を実施した。 ・寒川小学校で、企業等の協力を得て出前授業を行った。 ・ふれあい社協祭りでグラウンドゴルフ・ボッチャ大会を行った。	
	9 子育てサロンの充実	・例年どおり毎月1回実施予定だったが、担い手不足等により毎月はできなかったものの、実施した。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 寒川地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と 仲間づくり	10 障がい者との相互理解 と地域住民等との交流 の推進	・数人の障がい者が地域に暮らしており、各町内自治会役員(地区部会役員も含む)や民生委員 が地域で見守りを実施した。 ・「ふれ愛社協祭り」に軽度の身体障がいのある方が参加した。	
	11 世代間交流の場の提供	・子育てサロン開催時に、各町内自治会より高齢者が参加し、交流を図ることができた ・「ふれ愛社協祭り」は、規模を縮小して模擬店やグラウンドゴルフ・ボッチャ大会を開催し、世代間 交流を行った。 ・お祭り(祭事)は徐々にではあるが再開した。	
3 社会参加の 推進	12 高齢者の地域社会での 福祉活動の促進	・地区部会が実施している「いきいきサロン」「ふれ愛社協まつり」等の各種事業に、高齢者がボラ ンティアとして参加した。	
	13 障がい者の地域社会で の福祉活動の促進	(No.10と同様)	
4 地域の福祉 力向上、担い手 づくり	14 地域で福祉に関する講 座や研修会等の受講機 会の提供	・町内自治会ごとに、「いきいきサロン」単位で、市の出前講座などを実施した(全6町内自治会、 計6回)。 ・地区部会として、災害時要支援者避難訓練(1回)を実施した。 ・地区部会では、寒川小学校4年生を対象に、車椅子体験講座を年1回実施し、88人の児童が参 加した。	
5 相談体制、 情報提供の場 づくり	15 相談体制・情報提供の 充実	・主に、町内自治会の役員・組長や部会役員が役割を担っている。	
	16 福祉情報紙の充実と「中 央区ふくし・防災ガイド& マップ」の活用	・年2回社協だよりを発行した。 ・各町内自治会も定例会の内容を回覧板で地域にお知らせしている。 ・防災マップを作成し、活用している。	
6 福祉教育の 推進	17 地域での福祉教育の推 進	・地区部会では、寒川小学校4年生を対象に、車椅子体験講座を年1回実施し、88人の児童が参 加した。 ・敬老会に寒川小学校の有志が参加し、合唱や演奏する機会を設け、活動を通じて福祉の心を育 むとともに、寒川小学校の「わくわくキャンパス」に地域住民が協力した。 ・寒川小学校1年生の課外授業では、地区部会が中心となり、昔遊びを教える活動を通じて交流を 図った。 ・地区部会が健康講座を年1回開催するとともに、町内自治会ごとに市の出前講座などを実施し た。	
7 人にやさしい 生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・全6町内自治会ごとに、警察の協力を得て防犯パトロールを実施し、防犯意識を高めているが、 新型コロナのため、回数・人数を減らして実施した(全6町内自治会)。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。	
	19 防災体制の充実	・今年度も災害発生時に備え、地区部会が災害時要支援者の避難訓練を実施するとともに、避難 所運営委員会が、6町内自治会合同の防災訓練を参加者を減らして実施した。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) ちば中央地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・「歌と踊りの集い」の開催に併せて、各町内自治会、民生委員・児童委員、福祉活動推進員、子ども会等の交流を実施した。	
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・「オリーブ亥鼻福祉作業所」が年2回実施している地域交流会に参加している。 ・地域住民の個別相談は民生委員を中心に、地区部会役員や町内自治会で対応している。	
	3 見守り体制をつくる	民生委員・福祉活動推進員及び町内自治会の協力をいただきながら、個別対応ではあるが見守り活動を継続して実施している。	日頃のお付き合ひの中での見守り活動を通して、災害発生時においても円滑な避難ができるような地域づくりに努めたい。
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・3か所の避難所運営委員会で、年1回、地域住民の参加を呼びかけて防災訓練を実施し、防災意識の向上を図っている。 ・一部の町内自治会では、防災に関する出前講座を実施した。	防災訓練の実施などを通して、特に支援を必要とする地域住民が、災害発生時においても円滑な避難等ができるよう努めたい。
	5 すべての子どもを地域で育てる	・青少年育成委員会を中心に、小中学校PTA、子ども会、町内自治会、老人会、地域の事業者等に協力をお願いし「こども110番のいえ」に取り組んでいる。 ・登下校時はセーフティウォッチャーとして児童生徒への見守り・声掛けを継続して実施している。 ・主任児童委員が中心となり、1月より亀井町会館を会場に、小学校の子どもたちの居場所づくりとして「子どもカフェ」をスタートし、月1回程度(学校で市教研のある日に合わせて)実施している。	
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	・地区内の町内自治会では住民交流の場として自治会館を開放しているところもある。 ・東本町自治会館で、6月からいきいきサロン「東本町茶話会」をスタートし、月1回程度で実施している。	いきいきサロンの実施などを通して、高齢者が身近なところで、交流する場所と機会の充実を図り、閉じこもりの防止や仲間づくり、社会参加を図る機会を設け、フレイルの予防に努めたい。
	7 地域での健康づくり支援の充実	・各町内自治会では、地域のスポーツ推進委員と連携して、月1回程度、健康体操や脳トレを実施している。 ・地区部会では、地域のスポーツ推進委員やあんしんケアセンターと協力して、「ボッチャを楽しむ会」を年2回実施し、住民の交流の場を提供している。	
	8 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・子ども会、青少年相談員、育成委員会で小学生対象に「夕涼み会」を実施した。 ・10月に子ども会、スポーツ推進委員、学校が中心となり、地区親子運動会を開催した。 ・12月に青少年相談員が中心となり、クリスマス会を開催した。 ・1月に葛城公民館で、子ども会・青少年相談員・青少年育成委員会による「こども書初め展」同表彰式を開催した。 ・地区部会では、地域のスポーツ推進委員やあんしんケアセンターと協力して、「ボッチャを楽しむ会」を年2回実施し、住民の交流の場を提供している。	
	9 子育てサロンの充実	・子育てサロンは2会場を使用し、毎月1回各会場で開催しており、参加者から好評をいただいている。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) ちば中央地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と 仲間づくり	10 障がい者との相互理解 と地域住民等との交流 の推進	・「オリーブ亥鼻福祉作業所」が年2回実施している地域交流会に参加している。 ・地区部会が開催している「ボッチャを楽しむ会」には、地域の障がい者にも参加を呼びかけている。 ・「オリーブ亥鼻福祉作業所」で、「封筒の袋詰め」などの作業のお手伝いを3月より実施している。	
	11 世代間交流の場の提供	・地域住民の交流の場を提供している町内自治会では、気軽に立ち寄れるように囲碁・麻雀・カラオケ等を楽しめる場を設けていただいている。 ・8月に有志町内会合同の盆踊りを小学校で開催しており、地域外からの児童・生徒の参加も認め、世代間、地域間交流を図っている。	
3 社会参加の 推進	12 高齢者の地域社会での 福祉活動の促進	・地区部会や町内自治会の事業・行事の運営に、高齢者である役員が多く参加している。 ・地区部会のボランティア委員会が中心となり、年3回、使用済み切手の整理を行っており、地域のボランティアの活動の場を提供している。 ・一部のシニアクラブの高齢者が、地域活動の一環として、地域の花壇づくりや花壇の管理を行っている。	
	13 障がい者の地域社会での 福祉活動の促進	・歌と踊りの集い(敬老会)において、千葉中央警察署と協力し、振り込め詐欺の注意喚起を実施するとともに、「オリーブ亥鼻福祉作業所」の出店協力を行っているが、今年度は日程上の都合がつかず、実施にはいたらなかった。 ・民生委員の高齢者実態調査にあわせて、独自に、聴力・視力などの低下状況について聞き取りを行い、極端に低下している場合は、行政が実施しているサービスを紹介している。	
4 地域の福祉 力向上、担い手 づくり	14 地域で福祉に関する講 座や研修会等の受講機 会の提供	・民生委員が認知症や振り込め詐欺の啓発を町内自治会で行っている。	
5 相談体制、 情報提供の場 づくり	15 相談体制・情報提供の 充実	民生委員があんしんケアセンターと協力しながら、個別の相談に対応している。	個別相談への対応するなどを通して相談 の機会を増やし、地域での孤立化の防止に 努めたい。
	16 福祉情報紙の充実と「中 央区ふくし・防災ガイド& マップ」の活用	・社協だより「きづな」を年3回発行し、地域の各種情報を紹介した。	
6 福祉教育の 推進	17 地域での福祉教育の推 進	例年、敬老会の際、小学校、中学校の児童・生徒が参加し、歌や踊りを披露するなどのボラン ティア体験を通じ、福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図っているが、学校 行事等との関係から、今年度も小・中学校の児童・生徒の参加は見合わせた。	敬老会における小・中学生への参加協力を 依頼することなどを通して、児童・生徒の 福祉学習の機会の創出を図り、将来的なボ ランティア活動の担い手づくりに努めたい。
7 人にやさしい 生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・地域内の一部の町内自治会では、時間を定め複数人のチームで防犯パトロールに取り組んでい る。 ・青少年育成委員会でも、防犯パトロールを実施している。	
	19 防災体制の充実	(No.4と同様)	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 中央東地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	今年度は地域ケア会議の開催はなかったものの、地域の個別ケースとして地域高齢者の認知症にかかる対応等について、民生委員児童委員、区高齢障害支援課、あんしんケアセンターと協議した。 また、地域で認知症カフェの立ち上げを検討しているグループのサポートについても協議した。	地区部会で地域の認知症に対する理解を深めるため積極的に研修会を開催するとともに、認知症にかかる取組みを行っている施設の見学、調査等を実施したい。
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・基本的には、個別のケースの支援については、町内自治会長、民生委員、あんしんケアセンターを通じて行っている。 ・一部の地域では、ゴミ出し支援を行っている。	
	3 見守り体制をつくる	見守り活動については、感染防止策を講じながら例年どおり活動を行った。年4回の各自治会での報告会を実施し、その結果をリーダー報告会で報告し、課題や問題点等について協議した。また、ひとり暮らし高齢者に緊急通報システムやあんしん電話を積極的に紹介するなど情報発信に努めた。 さらに、見守り活動について、初期の目的と意義を地域住民に再認識してもらうため、各町内自治会に回覧による周知を図った。	従来の見守り活動を継続しながら、マンネリ化してきている現状を踏まえ、再度原点に戻り、見守り事業の再構築を図る。 具体的には、現在の地域住民のニーズを把握するためのアンケート調査等を実施したい。
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・避難所運営委員会(椿森中学校・院内小学校)を設立しているが、全員を収容することは不可能であるため、安全確認が出来たら在宅避難を推奨している。今年度の避難所開設訓練は、中央区の重点訓練会場に指定されたことから椿森中学校避難所運営委員会と中央区役所の合同訓練として8月に実施し、86世帯、94名が参加した。 その他、開設訓練を椿森中学校で1回実施し、運営会議を2～4回開催した。(椿森中学校・院内小学校) また、10月に安否確認訓練を実施した。	
	5 すべての子どもを地域で育てる	・セーフティウォッチャーの方々が学校登下校の見守り活動を実施しているほか、わくわくキャンパスでは地域の方々が指導者として活動している。 ・子ども会活動の運営資金確保のため、廃品回収は継続して行っている。 ・民生委員が、椿森中学校区のパトロールを継続して行っている。 ・地区部会では、年6回の「ちびっこひろば」を、奇数月に実施した。 ・椿森7町会連合で、2月3日の節分に椿森公園、翌4日に椿森三丁目公園で「椿森鬼まつり」を実施し、子ども176名、大人95名が参加した。	
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	・地区部会では「いきいきサロン」を感染防止策を講じながら、3会場でそれぞれ年4回実施した。また、「ふれあい散歩」も例年どおり6月に実施した。 ・「ふれあい食事サービス」は、3月にテイクアウト方式で開催した。 ・公民館では、高齢者の居場所づくりとしてお手玉づくり等を実施している。	
	7 地域での健康づくり支援の充実	・人の集まる活動の「いきいきサロン」や「ふれあい散歩」、「シニアのための健康体操」については、感染防止策を講じながら予定どおり実施した。 「いきいきサロン」は3会場でそれぞれ年4回実施し、「ふれあい散歩」も例年どおり6月に実施した。シニアのための健康体操は6月と11月の2回実施した。一部の町内会や老人会では早朝ラジオ体操、グラウンドゴルフ、公民館ではボッチャを行っている。	現在行っている「いきいきサロン」や「ふれあい散歩」、「シニアのための健康教室」を継続するとともに、参加者の意見を取り入れるなど、内容の充実と参加者の増員を図っていききたい。また、地域で行っている他の活動の紹介等を積極的にPRしていききたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 中央東地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と 仲間づくり	8 地域でのスポーツ活動 及び文化活動の推進	・地区部会主催「社協まつり」のハロウィンに、多くの親子連れが参加した。また、ボランティアとして椿森中学校の生徒や千葉女子専門学校の学生が運営面等に協力した。 ・地域住民が院内小「わくわくキャンパス」で指導を行っている。 ・スポーツ振興会主催の「連合体育祭」が雨天中止となり、代わりに地域各代表者で室内競技のボッチャを実施した。 ・民生委員児童委員主催の「子どもの広場」を7月に開催し、多くの子どもたちがピザづくりを楽しんだ。 ・地域の子どもたちに節分の豆まきを通して日本の伝統文化を体験してもらうため、椿森7町会が2月3日の節分に椿森公園、翌4日に椿森三丁目公園で「椿森鬼まつり」を実施した。	
	9 子育てサロンの充実	・「ちびっこひろば」は例年どおり5・7・9・11・1・3月の年6回開催した。参加者が低年齢化し参加者の人数も増え、保護者同士の交流がさかんとなり、大変充実した活動ができた。	参加者がより低年齢化したが、参加者がかなり増員となり、参加者同士の交流が活発となってきたことから、それらに適した内容の充実を図りたい。
	10 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・地区部会では就労継続支援事業所「まあるい広場」に月1回程度訪問し、障がい者と一緒に草取りや清掃、花苗を植えるなどの活動を実施した。 ・社協まつりで「まあるい広場」で作った物品・菓子のコーナーを設け、展示販売を実施した。	
	11 世代間交流の場の提供	・各町内会が、4年ぶりに誰でも参加できる餅つき、盆踊り、体育祭などの行事を実施した。	
3 社会参加の推進	12 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会の見守り活動などの事業に、高齢者もボランティアとして参加している。 ・一部の老人クラブでは、公園の清掃活動を行っている。	
	13 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・障がい者施設「まあるい広場」の障がい者の作品や物品の購入に協力している。 ・民生委員児童委員が「まあるい広場」へ定期的に牛乳パックを届けている。	
4 地域の福祉力向上、担い手づくり	14 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・地区部会の「いきいきサロン」で、あんしんケアセンター及び健康課の健康講座、消費生活センターの消費に関する講座などを実施している。 ・公民館でシニアリーダー体操や健康体操を実施している。 ・公民館が、あんしんケアセンターなどの健康講座を実施している。	
5 相談体制、情報提供の場づくり	15 相談体制・情報提供の充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に民生委員や町内自治会長が対応している。 ・地区部会では「ちびっこひろば」で相談コーナーを設け、乳幼児の健康についての相談を実施している。 ・地区部会が開催している「いきいきサロン」や「ふれあい食事会」で、スタッフが適宜相談に応じている。	
	16 福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	・地区部会の広報紙は、年4回発行し、地区部会の活動状況等を紹介している。 ・一部の町内会では地域の活動情報等を町会だよりとして発行している。	
6 福祉教育の推進	17 地域での福祉教育の推進	・わくわくキャンパス(院内小学校)で、民生委員や地域住民が協力している。 ・社協まつりでボランティアとして、椿森中学校の生徒会や千葉女子専門学校の学生がボランティアとして参加し、運営面等に協力した。	
7 人にやさしい生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・各町内自治会で防犯パトロールを実施している。 ・移動交番が椿森公園に開設されている。 ・「こども110番のいえ」や「セーフティウォッチャー」に住民が協力している。	
	19 防災体制の充実	・避難所運営委員会は、椿森中学校、院内小学校で活動をそれぞれ行っており、今年度の避難所開設訓練は、中央区の重点訓練会場に指定されたことから、中央区役所との合同訓練として8月に実施した。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 東千葉地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・地域の関係団体が参加する東千葉地区「地域づくり懇談会」において、地域課題について協議している中で課題の共有化が進み、次年度の地域全体の行事予定を策定することができた。 ・各町内自治会長が地区部会役員となっており、年3回の理事会を通じて町内自治会と地域情報の共有を図っている。 ・「ハッピーボランティア東千葉」を継続して実施している。 ・地域住民、千葉大学、千葉市が連携し、地域課題について話し合い、解決に向けた取り組みを行っている「東千葉 和・輪・環の会」の活動を通じて、地域の関係団体の連携が深まっている。 ・地区部会が「東千葉 和・輪・環の会」や小学校との共同開催事業を実施した。	
	2 支え合い活動の仕組みづくり	地区部会が高齢者等のちょっとした困りごとを支援する「ちょっとボランティア」と、地域の助け合いのグループである「東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)」を統合した「ハッピーボランティア東千葉」が、支え合い活動に取り組んでいる。 また、対応できないケースについては、コーディネーターが専門機関等を紹介できるよう他の支援サービスの一覧を作成している。	「ハッピーボランティア東千葉」の周知と専門機関、地元の薬局・病院との連携をより強化することにより、支援を必要とする地域住民の生活課題の解決を図り、住み慣れた地域で生活ができるよう努めたい。
	3 見守り体制をつくる	・ハッピーボランティア東千葉では、高齢者等、支援が必要な方を対象に、日常的な目配りによる見守り活動に取り組むとともに、住民同士が知り合える機会の提供に努めた。 ・民生委員が、「安心カード」を75歳以上の高齢者に配布している。なお、一部の町内自治会では、希望者にも配布している。 ・住民同士が気軽に声をかけ合い、認知症の方が安心して暮らせる地域を目指し、「福祉展」を実施した。	見守り活動を継続して実施するとともに、より身近な単位での茶話会を開くなど住民同士の顔合わせ機会を増やし、災害発生時においても円滑な避難ができるような地域づくりに努めたい。
2 交流の場と仲間づくり	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区部会と4町内自治会が協力し、「合同防災訓練」等を実施した。 ・避難所運営委員会に参加している。	地域全体の行事を年間で作成し地域住民に知らせる活動を強めるとともに、防災訓練の実施等を通して、災害に備えて避難支援を強化し、災害発生時においても円滑な避難ができるよう努めたい。
	5 すべての子どもを地域で育てる	・子育てサロンを年2回実施した。 ・自治会と地区部会が共同で「山部ふれ愛まつり」を実施し、多くの子どもたちが参加した。 ・千草台東小学校の授業の一環として、1年生「昔あそび」、6年生「戦争体験を聞く」を実施した。 ・「東千葉 和・輪・環の会」が「あいさつ運動」(毎日)を行っている。 ・「セーフティウォッチャー」や「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。 また、毎週月曜日午後3時から、「あいさつ防犯パトロール」を挨拶ロード記念イベントより継続している。 ・地区部会と「東千葉 和・輪・環の会」が共催した「ハロウィン・パーティ」の際、子どもたちがお菓子をもらいに行く家として、地域の約15世帯に協力していただいた。参加者は子ども、大人、スタッフを入れて120名となった。 ・学区が3区にまたがっているため、地域行事のチラシ等は学校を通じて配布しており、区をまたがって参加者を受け入れている。 ・有志による防犯パトロールに子どもたちが参加している。 ・サマーイベントを実施した。(4日間で、子どもは延べ22名、大人は延べ30名参加した。) ・「子どもの日まつり」「鬼まつり」を新たに企画し、実施した。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 東千葉地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と 仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	・「コミュニティサロン」を増やし、実施した。 (うたごえ喫茶[毎月]、スマホ活用の回[月2回]、ふれあいマルシェ[週1回]) ・「菜の花サロン」(千草台東小学校の授業の一環とした高齢者との交流会)を年2回実施した。 ・「元気カフェ」(脳トレ、体操、音楽療法)を週1回実施した。 ・住民、千葉大学、千葉市が連携して設立した「東千葉 和・輪・環の会」が、「えんがわサロン(茶話会)」を実施した。	
	7 地域での健康づくり支援の充実	・ノルディックウォークを週2回実施した。 ・「元気カフェ」(脳トレ、体操、音楽療法)を週1回実施した。 ・「東千葉健康セミナー」を3回実施した。	
	8 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・ボッチャ体験会を実施した。 ・学区が3区にまたがっているため、青少年育成委員会との連携が困難である。 ・学校、PTAの活動において、地区部会が「ベルマーク収集」など協力可能な事業に協力した。	
	9 子育てサロンの充実	・子育てサロンを年2回実施した。 ・児童母子福祉委員会と地域保健推進員が中心となって、活動(ソフト面)について創意工夫しながら活動している。 ・地域保健推進員がいなくなり、対象者の把握が困難な状況である。	
	10 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・毎年「まあるい広場まつり」に参加し、社会参加支援を実施している。 ・自治会と地区部会が共同で「山部ふれ愛まつり」を開催し、「オリーブハウス」「ジョブ作草部」「カフェ・ハーモニー」「まあるい広場」の販売ブースを設けた。	
	11 世代間交流の場の提供	・「菜の花サロン」(千草台東小学校の授業の一環として、1年生・6年生を対象にした高齢者との交流会)を年2回実施した。 ・自治会と地区部会が共同で「山部ふれ愛まつり」を開催し、「オリーブハウス」「ジョブ作草部」「カフェ・ハーモニー」「まあるい広場」の販売ブースを設けた。	
3 社会参加の 推進	12 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会の各種事業や「東千葉 和・輪・環の会」等の住民組織により、活動の場が増えてきている。 ・「ぶらりとカルチャー」「スマホ活用の会」「住民作品展」などを実施した。 ・「東千葉 和・輪・環の会」が週1回実施している「えんがわサロン(茶話会)」では、参加者の特技(スマホ教室等)を生かす機会を提供し、高齢者の地域社会での活動の場を拡大した。	
	13 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	(No.10と同様)	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 東千葉地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
4 地域の福祉 力向上、担い手 づくり	14 地域で福祉に関する講 座や研修会等の受講機 会の提供	・地区部会、民児協、「東千葉 和・輪・環の会」で、「東千葉ふくし展」を開催した。 ・東千葉防災懇話会「くるま座の会」が連協の組織として位置づけられた。また、市や区職員を講師として、防災についての研修を実施した。	
5 相談体制、 情報提供の場 づくり	15 相談体制・情報提供の 充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に地区部会役員や民生委員が対応している。 ・「東千葉 和・輪・環の会」があんしんケアセンター弁天の協力を得て、あんしんケアセンター職員に個別相談に乗っていただき、各種情報の提供をいただいている。 ・「ハッピーボランティア東千葉」で、「ちょっと困った事の相談」の電話受付をしている。 ・「年金学習会」を2回実施した。 ・市職員を講師として、高齢者の食事についての研修会を実施した。	
	16 福祉情報紙の充実と「中 央区ふくし・防災ガイド& マップ」の活用	・「社協だより」を年2回発行した。また、「行事案内」は毎月発行している。 ・「東千葉 和・輪・環の会」が発行している「タウンだより」に、住民の“お国自慢”や“わが街のお 達人さん”を掲載している。また、新住民の自己紹介コーナーを設け、こうした記事をきっかけに住 民の輪が広がり、人材の発掘にも繋がっている。	
6 福祉教育の 推進	17 地域での福祉教育の推 進	・「菜の花サロン」(千草台東小学校の授業の一環として、1年生・6年生を対象にした高齢者との 交流会)を年2回実施した。 ・東千葉防災懇話会「くるま座の会」で市や区職員を講師として、防災についての研修を実施した。	
7 人にやさしい 生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・住民有志が防犯パトロールを、週2回(月曜日・水曜日)行っている。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。	
	19 防災体制の充実	・町内自治会単位の防災訓練と、4町内自治会合同防災訓練を実施した。 ・東千葉防災懇話会「くるま座の会」で市や区職員を講師として、防災についての研修を実施した。 ・災害時避難マップは配布している。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 西千葉地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・地区部会の役員に、町内自治会長や民生委員児童委員に就任いただいております。隔月に実施している役員会において、地域の情報交換を実施した。 ・地域でイベントがある場合は、実行委員会として各団体が集まって協力している。 ・特別養護老人ホーム新千葉一倫荘が、町内自治会長や民生委員、福祉活動推進員に参加してもらい、地域の困りごとについて意見交換する連絡会を実施している。	
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・5つの老人クラブや見守り協力員の方々が、地域で困っている方のゴミ出しや自宅前の掃除などのお手伝いを無償で行うとともに、町内の清掃も実施している。 ・地域のイベント等で協力依頼がある場合は、民生委員や各町内自治会、地区部会などで協力者を募って協力した。	
	3 見守り体制をつくる	地区部会・第5地区町内自治会連絡協議会、第108地区民児協の三者協働で、平成19年から見守り活動として、「安心カード・緊急メモ」を作成し、6町内のひとり暮らしや障害者、現在は、75歳以上の高齢者に配布し、玄関、電話の場所に設置してもらっている。救急車で搬送時には、連絡先等が明記されているため大変助かったと感謝されている。 6町内自治会全てにおいて、独自の方法で見守り活動を実施するとともに、見守り対象者の更新を毎年行っている。向こう三軒両隣での目配りや声かけを実施した。 また、防犯パトロールにおいては、地域住民が「安心・安全」に生活できるよう、不審者情報・詐欺情報・火の用心等を周知し、実施した。	地域の見守り活動等を通して、災害発生時に円滑に避難ができるような地域づくりに努めたい。
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	民生委員が中心になって民生委員が把握している情報をもとに、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会と情報を共有している。名簿とマップは今年度も更新した。 災害時には、日常的な見守り活動を行っている協力員が、避難支援を行う体制をとっている。避難所運営委員会が、年1回会議を開催し、備蓄品の確認を行った。	前年度と同様、町内自治会と災害時要支援者に関する情報を共有し、災害時には避難支援を行う体制づくりに努めたい。
	5 すべての子どもを地域で育てる	・登戸小学校へ登録した町内自治会(住民)と民生委員がセーフティウォッチャーとして登下校時に児童を見守っている。 ・PTAが、給食や学校行事にセーフティウォッチャー登録者を招待し、児童との交流を図っているが、新型コロナのため中止した。 ・地区部会と育成委員会が協力して、「こども110番のいえ」の既存協力者宅の確認と新規協力者宅の増設に努めた。 ・老人クラブが、登戸幼稚園の園児と毎年、公園の花植えや水やり、花壇の清掃などを行っている。 ・町内自治会主体で、「ごみゼロの日」に小学生と自治会と一緒に各公園の清掃活動を実施した。子ども会も同様の活動を行っている。 ・登戸1丁目自治会が、子どもたちの健全育成や地域住民との交流を図る場として、地域食堂を令和元年度から行っている。 ・登戸小学校、緑町小学校では、PTAが主体となって「わくわくキャンパス」を実施している。また、1年生を対象に、年1回実施している昔遊び等の体験活動に、地域の方が参加し協力している。 ・登渡神社の子ども神輿や育成委員会主催の納涼まつり等の地域行事を再開し、子どもたちと顔見知りになる機会を設けた。	
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	・6町内自治会が、「高齢者対象サロン」を定期的で開催した。 ・5つの老人クラブが、グラウンドゴルフ、折り紙、麻雀、映画会、歌等、高齢者が集う催しを定期的で開催した。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 西千葉地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と 仲間づくり	7 地域での健康づくり支援 の充実	・地区部会、福祉活動推進員が中心となり、中央介護福祉専門学校の先生を招いて、健康体操教室を再開している。 ・社会体育振興会が主催となって、ボッチャ大会を開催した。 ・6町内自治会中、5町内自治会において、老人クラブが組織されており、老人クラブが「グラウンドゴルフ大会」を開催した。 ・スポーツ振興会では、「ウォーキング」を定期的実施した。 ・シニアリーダーが、三和会館を会場に、シニアリーダー体操を実施した。 ・登戸ラジオ体操会が、毎日、登渡神社でラジオ体操を実施した。	健康体操教室やシニアリーダー体操などの各種健康に関する行事を通して、地域住民の健康づくりに努めたい。
	8 地域でのスポーツ活動 及び文化活動の推進	・登戸小学校、緑町小学校では、PTAが主体となって「わくわくキャンパス」を実施している。また、1年生を対象に、年1回実施している昔遊び等の体験活動に、地域の方が参加し協力している。 ・登渡神楽囃子連が、わくわくキャンパスで、お囃子を教えている。 ・5つの老人クラブが、登戸幼稚園の園児と毎年、公園の花植えや水やり、花壇の清掃などを行っている。 ・町内自治会主体で、「ごみゼロの日」に小学生と自治会と一緒に各公園の清掃活動を実施している。子ども会も同様の活動を行っている。 ・バレーボールやバドミントンの愛好会が毎週練習しており、スポーツ振興会のバレーボール大会、バドミントン大会に参加している。また、スポーツ振興会ではミニ運動会を開催している(新型コロナで中止)。 ・子ども会では、綱引き大会やラジオ体操を実施している。	
	9 子育てサロンの充実	・0歳から3歳前後の子どもとその保護者を対象に、「よいこの広場」を年10回、登戸1丁目自治会館で実施した。 ・3歳以上の子どもと保護者を対象に、「ぴよんぴよんクラブ」を年10回、西登戸会館で実施した。	
	10 障がい者との相互理解 と地域住民等との交流 の推進	・イベントを開催するにあたり、健常者と障がい者の区別なく対応するよう心掛けている。	
	11 世代間交流の場の提供	・地区部会では、今年度は三和会館で春のミニバザーを開催した。感染症対策をし、近隣の親子連れ、若者、高齢者が集まり、世代を超えた交流の場となった。 ・特別養護老人ホーム新千葉一倫荘では、年数回「地域交流会」を開催し、地域の子どもたちも参加した。 ・町内自治会主体で実施している「清掃活動(グリーンデイ)」「花壇の花植え活動」等に、大人も子どもも参加し、交流の機会となった。 ・一部の町内自治会では「文化祭」を開催し、大勢の参加者が集まり、地域での交流の場となった。	前年度と同様、ミニバザーや交流会、発表会の開催などを通して地域住民の世代の枠を超えた交流の場づくりに努めるとともに、地区部会、福祉活動推進員が主催となり、サロン活動を実施したい。 なお、令和6年度のバザーについては、秋の開催を予定している。
3 社会参加の 推進	12 高齢者の地域社会での 福祉活動の促進	・地区部会が実施している「見守り活動」「ふれあいミニバザー」等の各種事業に、高齢者がボランティアとして参加している。 ・5つの老人クラブや見守り協力員が、地域で困っている方のゴミ出しや自宅前の掃除などのお手伝いを無償で行うとともに、町内の清掃も実施している。 ・公園の植木の手入れや管理を高齢者が行っている。	
	13 障がい者の地域社会での 福祉活動の促進	(No.10と同様)	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 西千葉地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
4 地域福祉力向上、担い手づくり	14 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・地区部会では、福祉活動推進員が中心となり、中央介護福祉専門学校の先生を招いて、健康体操教室を再開した。 ・各町内自治会でも、老人クラブと協力して、認知症や口腔ケア等の福祉講座を開催した。	交流の場をつくるとともに、地域住民が地域福祉活動の担い手となるきっかけづくりの場を設けるよう努めたい。 地区部会では、サロン活動を実施する予定である。
5 相談体制、情報提供の場づくり	15 相談体制・情報提供の充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に民生委員や町内自治会役員が対応している。見守り協力員から民生委員に相談が繋がる仕組みもできている。 ・三和会館及び西登戸会館では、週のうち数日、町内自治会関係者が常駐し、開館対応と案内対応を行っている。	
	16 福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	・現在は「ふくし・防災ガイド&マップ」を活用している。 ・各町内自治会で、地域の福祉マップを作成している。 ・地区部会のネットワーク委員会が社協だよりを年1回作成・発行し、地区部会活動のお知らせや活動報告を住民へ周知している。A4版カラー印刷で1,100部作成し、回覧及び配布をした。	
6 福祉教育の推進	17 地域での福祉教育の推進	・老人クラブが登戸幼稚園の園児と毎年、公園の花植えや水やり、花壇の清掃などを行う活動や、町内自治会主体で「ごみゼロの日」に小学生と自治会と一緒に各公園の清掃を行う活動を通じ、児童に地域の一員として活動する機会を設けている。 ・小学校では、社会奉仕の日に各公園の清掃を行っており、老人クラブと一緒に活動している。 ・登戸小学校、緑町小学校では、PTAが主体となって「わくわくキャンパス」を実施している。また、1年生を対象に、年1回実施している昔遊び等の体験活動に、地域の方が参加し協力している。 ・地区部会では、福祉活動推進員が主となり、中央介護福祉専門学校の協力のもと、健康体操を実施した。 ・各町内自治会でも、老人クラブと協力して、福祉講座を開催している。	
7 人にやさしい生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・老人会、子ども会、町内自治会、育成委員会等が、地域パトロールを実施しており、そのなかで地域で見かけない人物を目撃した場合、顔を覚えるなどして防犯を行っている。 ・地区部会と育成委員会が協力して、「こども110番のいえ」の既存協力者宅の確認と新規協力者宅の増設に努めている。 ・地域で「あいさつ運動」を実施している。 ・移動交番が、三和会館に開設されている。	
	19 防災体制の充実	地区部会では、年1回、地域住民や地区部会役員を対象に、防災意識の啓発や赤十字救急法等を内容とした防災講座を開催した。 6町内自治会では、すべてに自主防災会があり、各防災会が、年1回、安全確認、避難訓練、初期消火、応急手当訓練、非常食配布、発電機起動実演、AED訓練、ハイゼックス訓練、起震車、煙体験などの訓練や防災講座を実施しており、赤十字奉仕団と協力している。防災訓練には子どもたちも参加している。	防災講座や防災訓練の実施等を通して、地域住民が災害時において円滑に避難等ができるよう努めたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 中央地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・町内自治会や民生委員、育成委員会、子ども会等、地域の関係団体が地区部会に関わっており、地区部会の会合等で連携を図ることを検討した。	
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・地域内の個別ニーズについては、主に地区民生委員が対応している。	
	3 見守り体制をつくる	・6町内自治会中、2町内自治会で、75歳以上のひとり暮らし高齢者のうち見守りを希望する方を対象に、目配りによる見守りを実施した。 ・既に実施している町内自治会では、見守り希望者を再募集し、活動の充実を図った。 ・地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対する働きかけは、継続して実施している。	
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・町内自治会ごとに防災訓練は実施しているものの、地区によって温度差がある。 ・平成30年に設立された弁天小学校避難所運営委員会では避難所運営マニュアルを作成し、活動中である。 ・弁天町会は、千葉県避難行動要支援者名簿を2024年1月に受領し、運用に入った。	
	5 すべての子どもを地域で育てる	・地区部会では、毎朝、消費生活センター前の信号及び弁天4丁目一方通行信号前で見守りを行った。また、毎週金曜日の下校時に小学1～2年生を対象に、消費生活センター前の信号でも見守りを行った。 ・児童の健全育成を図るため、地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞などを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深めた。(参加者157名) ・弁天小学校の「わくわくキャンパス」を隔週の木曜日に実施した。開催時間を14時30分から15時30分とし、5月から2月まで計16回開催し、ソフトボールやキックベースボール等を実施し、地区部会も協力している。 ・地域住民がセーフティウォッチャーとなり、通学路での見守り活動を実施した。	・地区部会では、毎朝、消費生活センター前の信号及び弁天4丁目一方通行信号前で見守りを行うとともに、毎週金曜日の下校時に小学1～2年生を対象に消費生活センター前の信号でも見守りを行う。 ・児童の健全育成を図るため、地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞などを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深める。 ・弁天小学校の「わくわくキャンパス」を隔週の木曜日に実施する。開催時間を14時30分から15時30分とし、5月から2月まで計15回、ソフトボールやキックベースボール等を実施する予定であり、地区部会も協力する。 児童は放課後の行事参加者が減少しており、例ね実施していたソフトボール大会も参加者が減少しているため、ポッチャへの変更を予定する。 ・地域住民がセーフティウォッチャー登録し、児童を見守る活動を実施する。
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	地区部会(高齢者福祉委員会)が、いきいきサロンを3会場で実施した。 中央区健康課の筋力体操や、あんしんケアセンター中央の健康講話を取り入れる等、内容の充実に努め、高齢者の健康維持や仲間づくりに取り組んでおり、令和5年度は年11回実施した。	・地区部会(高齢者福祉委員会)が、いきいきサロンを3会場で実施する。中央区健康課の筋力体操や、あんしんケアセンター中央の健康講話を取り入れる等、内容の充実に努め、高齢者の健康維持や仲間づくりに取り組む。令和6年度も年11回実施予定である。 ・弁天では75歳以上の独居高齢者に参加を呼びかけているが、参加者は10～15名と少ない。令和6年度は参加者を増やすため、75歳以上の高齢者約300名に参加を呼びかけたい。
	7 地域での健康づくり支援の充実	・各町内自治会の老人クラブやサークル等で合唱や脳トレを行った。 ・千葉パーク友の会が、千葉公園運動広場で、毎朝、健康体操を行っている。 ・全町民を対象に、落語鑑賞会を開催した。(参加者35名〔役員6名を含む〕)	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 中央地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と 仲間づくり	8 地域でのスポーツ活動 及び文化活動の推進	・弁天小学校の「わくわくキャンパス」を隔週の木曜日に実施した。実施時間を14時30分から15時30分に変更の上、5月から2月まで計16回開催し、ソフトボールやキックベースボール等を実施し、地区部会も協力している。 ・地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞などを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深めた。(167参加〔役員10名を含む〕)	
	9 子育てサロンの充実	・地区部会が、子育て中の親子を対象に、親同士の情報交換や栄養士・歯科衛生士からのお話し、読み聞かせ、親子体操等を内容とした子育てサロンを、年6回実施した。	
	10 障がい者との相互理解 と地域住民等との交流 の推進	・地区部会が実施している「社協まつり」でカフェ・ハーモニーがゲームコーナーと手芸品の販売、焼きそばの屋台を出店した。 ・カフェハーモニーの広報(地域でのチラシの配布)に協力したほか、行事に積極的に参加し、会員の加入を促進した。また、老人クラブが、月2回の定例会の後、カフェ・ハーモニーで食事をし、売上に貢献している。	
	11 世代間交流の場の提供	・地区部会が「社協まつり」を実施し、誰もが集える地域行事で世代間交流を図った。 (参加者201名〔役員50名を含む〕)	
3 社会参加の 推進	12 高齢者の地域社会での 福祉活動の促進	・地区部会が実施している各種事業に高齢者がボランティアとして参加している。 ・防犯パトロールは、高齢者が中心に行っている。	
	13 障がい者の地域社会での 福祉活動の促進	(No.10と同様)	
4 地域の福祉 力向上、担い手 づくり	14 地域で福祉に関する講 座や研修会等の受講機 会の提供	・いきいきサロンにおいて「筋力体操の講座」を開催するなど、さまざまな事業の中で類似の講座を実施した。	
5 相談体制、 情報提供の場 づくり	15 相談体制・情報提供の 充実	・町内自治会役員、民生委員が個別に対応している。	
	16 福祉情報紙の充実と「中 央区ふくし・防災ガイド& マップ」の活用	・年3回社協だよりを発行した。	
6 福祉教育の 推進	17 地域での福祉教育の推 進	・弁天小学校の「わくわくキャンパス」を隔週の木曜日に実施した。実施時間を14時30分から15時30分に変更の上、5月から2月まで計16回開催し、ソフトボールやキックベースボール等を実施し、地区部会も協力している。 ・社協まつりにおいて、地域子どもたち自らオリジナルマスクを作成し、参加者に配布したり、希望者にマスクの作成指導を行った。 ・社協まつりにおいて実行委員会(地区部会、PTA、子ども会、各町内自治会)を立ち上げ、地域全体の協力を得ながら開催した。	
7 人にやさしい 生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・地区部会では、弁天小学校の1・2年生とその保護者を対象に、NPO法人「体験型安全教育支援機構」を講師に迎え、「児童向けの安全教室」を実施し、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方等を訓練した。(参加者:親子6組〔12名〕、地区部会役員6名) ・町内自治会では、防犯に対する意識の向上を図るため、防犯パトロールを実施した。	・地区部会では、弁天小学校の1・2年生とその保護者を対象に、NPO法人「体験型安全教育支援機構」を講師に迎え、「児童向けの安全教室」を行い、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方等を訓練することとし、参加対象者を1～3年生まで広げ、参加者の増加を図りたい。 ・町内自治会では、防犯に対する意識の向上を図るため、防犯パトロールを実施することとし、1町会あたり月1回の実施を目標としたい。
	19 防災体制の充実	・弁天町会では、6月25日に避難所開設訓練を実施した。 また、各町会では防災訓練を実施した。	・町内自治会では、避難所運営開設訓練を実施することとし、1町会あたり年1回の実施を目標としたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 新宿地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・地区部会が核となり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンターが参加する役員会(2か月に1回)などでネットワーク作りを行い、各団体の情報を共有している。	
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・拠点を設けての活動は行っていないが、民生委員が個別に対応している。	
	3 見守り体制をつくる	・民生委員が主体となり、あんしんケアセンターと連携しながら見守りを行っている。また、マンションについては管理人に見守りをお願いしている。 ・町内自治会や老人会では、諸行事を通じて顔見知りになる機会を設け、緊密な人間関係の構築に努めている。 ・地区部会では、今年度安心カードを作成し、令和6年度より75歳以上の方へ順次配布できるよう準備を進めた。また、見守り活動に協力いただける方に、セーフティウォッチャーや近所のさりげない見守り活動に協力いただいている。	あんしんケアセンターと連携した見守り活動や、75歳以上の方に対する安心カードの配布などを通して、災害発生時においても円滑な避難ができるような地域づくりに努めたい。
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、隔月で会議を開催している。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受入れが出来るよう、100人規模での住民参加による避難訓練を実施した。	
	5 すべての子どもを地域で育てる	例年、町内自治会や子ども会では、餅つき、お祭り、お花見、盆踊り、新年会、敬老会の余興など、地域の行事に子どもたちが参加し、住民と交流を図った。 地区部会では、初めて出産を経験した両親を対象に、子育てに関する悩み相談及び母親同士の友だちづくりの場として、「ぷち・あんじゅ」を年4回開催した。 母親を対象とした子育てサークル「学びと気づきの教室『mama'sの会』」を月1回(毎月第3木曜日)それぞれ開催し、子育て中の親の育児相談を受け付け、子育てに関する悩みに対応した取り組みを行った。 また、新宿保育所内の地域子育て支援センター「にこにこルーム」にボランティアとして参加した。 地域住民が、「こども110番のいえ」に協力するとともに、セーフティウォッチャーとして学校に30名程度登録して登下校時の子ども達の安全を見守った。 地区部会が、子ども会の活動に協力をしている。	地域行事の開催や子育てに関する集いの場づくりなどを通して、子どもたちが地域住民と顔見知りになる機会を設け、地域の中で安全に過ごせるような環境づくりに努めたい。
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	地区部会では、高齢者の仲間づくりの場を提供するため「ふれあい・いきいきサロン」を年2回実施した。 町内自治会や老人クラブではグラウンドゴルフ、カラオケ等を実施し、月1回程度は高齢者が交流する機会を設けている。また、婦人部による「歌の会」を毎月1回実施している。	ふれあい・いきいきサロンの実施などを通して、高齢者がの閉じこもりの防止や仲間づくり、社会参加を図る機会を設け、フレイルの予防に努めたい。 なお、ふれあい・いきいきサロン「ゆうきのサロン」については隔月で開催する予定である。
	7 地域での健康づくり支援の充実	・地区部会では、高齢者の健康増進を図るため「歩こう会」を年3回実施した。 ・高齢者を対象に、「健康づくりのための体操」を実施した。 ・スポーツ振興会では、グラウンドゴルフ大会を年2回開催した。 ・新宿公民館では、週1回、シニアリーダー体操が行われている。 ・新宿2丁目会館で、健康マーじゃんを週2回、誰でも参加できる形で開催し、高齢者の交流の機会を設けている。	地域の高齢者の閉じこもり防止や仲間づくり、健康の維持増進を図る機会を設け、介護やフレイルの予防に努めたい。 次年度においては「歩こう会」や「ボッチャ体験」などの活動をあんしんケアセンターが主催となって実施する予定であり、地域としてあんしんケアセンターの行事に参加協力していきたい。
	8 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・スポーツ振興会で、グラウンドゴルフを実施した。 ・地区部会が、子ども会の活動に協力をしている。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 新宿地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と仲間づくり	9 子育てサロンの充実	・地区部会では、幼少期の子どもがいる親の負担を軽減するため、新宿公民館で「0歳児の親子育児サークル『ぷち・あんじゅ』」を年4回、母親を対象とした子育てサークル「学びと気づきの教室『mama'sの会』」を月1回(毎月第3木曜日)それぞれ開催し、子育て中の親の育児相談を受け付け、子育てに関する悩みに対応した取り組みを行った。 ・新宿保育所内の地域子育て支援センター「にこにこルーム」にボランティアとして参加した。 ・老人クラブが、保育所からの依頼を受け、昔遊びや折り紙を指導しているが、新型コロナの影響により、再開にはいたらなかった。	子育てサークルの実施などを通して、地域の子育て中の親子の孤立化の防止や仲間づくりの場と機会の拡充を図りたい。 なお、老人クラブによる昔遊びや折り紙の指導については、再開に向けて検討していきたい。
	10 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	例年、地区部会の障がい者福祉委員会が、千葉県聴覚障害者協会の就労継続支援施設「らいおん工房」で、月1回、広報紙の発送等を手伝うボランティア活動を行い、障がい者との交流を図っているが、新型コロナの影響により再開にはいたらなかった。 なお、販売品の材料の寄付や販売品の購入を通じて交流を図った。	地域の障がい者福祉施設との交流を通して、地域住民の障がい者と相互理解を図れるよう努めたい。 障がい者福祉施設における「ボランティア活動の再開」や「地域行事とのコラボレーション」については、検討を行っていきたい。
	11 世代間交流の場の提供	・住民の交流を図るため、各町内自治会での盆踊りや夏祭り、花見等、誰でも参加できる地域行事を実施した。	
3 社会参加の推進	12 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・地区部会や町内自治会の事業の運営に高齢者が参加している。 ・老人会と地域住民が共同で、神社や公園の清掃を行っている。 ・月3回の新宿公園の清掃活動に高齢者が参加している。	
	13 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・イベントの広報は障害の有無に関わらず、地域住民に回覧で広報している。	
4 地域福祉力向上、担い手づくり	14 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・地域での公園清掃活動や地域行事などに、地区部会や町内自治会が参加を呼びかけ、多くの地域住民が地域活動に参加する機会を提供している。	地域住民に対する福祉活動等への呼びかけなどを通して、地域での福祉活動への理解と参加の促進に努めるとともに、「福祉に関する講座」の開催について検討していきたい。
5 相談体制、情報提供の場づくり	15 相談体制・情報提供の充実	・民生委員や町内自治会が、地域の方々の個別の相談に応じ、対応が困難なケースについては、専門機関の情報を提供している。 ・隔月に実施する地区部会の役員会において、地域の関係団体の情報共有を図っている。役員会には、あんしんケアセンターに毎回参加いただき、情報共有するとともに、高齢者に関する相談が気軽にできる関係性の構築に努めている。	
	16 福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	・広報紙を年2回発行した。 ・各町内自治会で防災マップを作成している。	広報紙の発行や、防災マップの見直し等を通して、福祉や防災に関する情報の入手機会を増やし、地域での孤立化の解消を図れるよう努めたい。
6 福祉教育の推進	17 地域での福祉教育の推進	・地区部会があんしんケアセンターと連携して、新宿中学校1年生を対象に、認知症に関する講座を開催し、認知症に対する理解の促進を図った。	
7 人にやさしい生活環境づくり	18 防犯対策の推進	町内自治会では、月2回、防犯パトロールを実施するとともに、地域交番(京成交番)や消防団と連携し、地域の防犯意識の向上に取り組んだ。 また、防犯パトロールの際には、防犯灯(街路灯)の不点灯等の確認を行っている。	防犯パトロールなどの実施を通して、地域住民が安心してその地域で生活ができるよう、防犯意識の向上を図れるよう努めたい。
	19 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、隔月で会議を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施し、例年、100人強が参加している。 ・多くの人々が参加しやすいよう、災害時に必要な情報をホームページで発信するなど、住民の意識向上に取り組んだ。 ・起震車、煙体験、赤十字救急法などを取り入れた防災訓練を年1回開催した。	避難訓練や防災訓練の実施などを通して、地域住民が自身や家族等の安全が守れるよう、防災意識の向上を図れるよう努めたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 千葉みなと地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・町内自治会や民生委員・児童委員、行政等の関係機関・団体が集まり、「千葉みなと地区部会」、「千葉みなと地区自治会連合会」、「新宿中学校避難所運営委員会」の定期会合をそれぞれ2か月に1回開催し、地域課題の意見交換を行った。 ・千葉市みなと活性化協議会に協力し、「さんばしまつり」を実施するなど、他団体とのさらなる連携が図られている。 ・学校や民生委員などとの協力を得て、地域に居住している小・中学生の保護者を対象に「地域での困りごと」や「地域行事等への協力」についてのアンケートを実施した。	地域での各種会議を通して、地域の各種団体の強みを活かしながら地域課題の解決に向けて各種団体の連携を図るよう努めるとともに、アンケート結果に対し、新たな地域活動についての検討を行いたい。
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・個別のケースについては、町内自治会長や民生委員が個別に支援にあたっている。 ・地域支え合い連絡会の設立に向け、ボランティアや福祉活動推進員を確保するため、人材募集を実施した。	
	3 見守り体制をつくる	・民生委員の協力にてひとり暮らしの高齢者や要介護者等の実態を把握した。また、マンションの管理人と情報交換し、各マンションの情報把握に努めた。 ・地域のセーフティウォッチャーが増えたことで、地域安全・地域福祉の充実化が図られている。 ・地域の危険箇所への看板の設置などを警察署に要望し、それに基づき看板が設置されている。	地域の高齢者等などの情報把握などの活動やセーフティウォッチャー活動を通して、安全・安心な地域づくりの体制構築が図れるよう努めたい。
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・災害に備え、避難所運営委員会が年2回、避難所開設訓練を実施した。 ・避難所運営委員会の定例会議を隔月で実施した。 ・民生委員が持っている「支援を必要としている人の情報」を共有する方法については検討中である。	
	5 すべての子どもを地域で育てる	・地域でセーフティウォッチャーに協力し、地域のセーフティウォッチャーが増えたことで、地域安全・地域福祉の充実化が図られている。 ・こども110番のいえに、地域住民・店舗・企業・マンション管理組合が協力している。 ・地区部会がセーフティウォッチャーやこども110番のいえの協力者募集のポスターを作成し、マンション等に掲示するなど、協力者の確保に向けての協力を実施した。 ・学校や民生委員などとの協力を得て、地域に居住している小・中学生の保護者を対象に「地域での困りごと」や「地域行事等への協力」についてのアンケートを実施した。	
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	・高齢者の交流を図るため、一部の町内自治会で集会所を利用し、シニアリーダー体操を実施した。 ・落語会、チョイ飲み会、音楽会等、高齢者が交流する場を各町内自治会で実施し、地区部会ではその情報を共有している。 ・サロンなどの地区部会における拠点の確保については、検討課題として認識している。	
	7 地域での健康づくり支援の充実	・高齢者の健康増進を図るため、一部の町内自治会で集会所を利用し、シニアリーダー体操を実施した。今後、他の町内自治会でも実施すべくシニアリーダーと検討中である。 ・地区部会が、地域住民の交流を図るため実施している「歩こう会」は、活動再開に向けて検討中である。	
	8 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・都川河口一帯を「結城野(ゆうきの)」と呼んできたことから命名された「ゆうきの夏祭り」に、歴史パネルを展示し地域の歴史を学ぶ機会を提供した。 ・町内自治会ごとに、夏祭り、クリスマス会、文化祭等を活動を再開した。 ・地域で音楽会を開催し、その中で新宿中学校の音楽部等の生徒に演奏等をしていただいた。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 千葉みなと地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と 仲間づくり	9 子育てサロンの充実	・一部の町内自治会が、年1回、新1年生の親子の交流会を実施している。 ・マンションが実施している夏祭りで交流を図っている。 ・新宿地区部会のサロン開催のパンフレットを配布している。 ・サロンなどの地区部会における拠点の確保については、検討課題として認識している。	
	10 障がい者との相互理解 と地域住民等との交流 の推進	・地区部会として情報収集を行うなど、活動の実施に向けて検討中。	
	11 世代間交流の場の提供	・マンションが実施している夏祭り等で交流を図っている。 ・年3回実施している公園清掃には企業も協力しており、地域の大人も子どもも100人以上参加し、世代間交流の機会となった。 ・地域で音楽会を開催し、その中で新宿中学校の音楽部等の生徒による演奏等を通して世代間交流を図った。	
3 社会参加の 推進	12 高齢者の地域社会での 福祉活動の促進	・一部の町内自治会で、文化祭を実施しており、高齢者が趣味を披露する場となっている。 ・一部の町内自治会で、クリーンアップ作戦の案内をし、活動への参加を呼び掛けている。 ・一部の町内自治会で「いきいきマージャン」を開催した。 ・地域の高齢者がセーフティウォッチャーに協力し、地域安全・地域福祉の充実化が図られている。 ・地域の高齢者が、年3回実施している公園清掃に参加し、活動に協力した。	
	13 障がい者の地域社会での 福祉活動の促進	・地区部会として情報収集を行うなど、活動の実施に向けて検討中である。	
4 地域の福祉 力向上、担い手 づくり	14 地域で福祉に関する講 座や研修会等の受講機 会の提供	・地区部会として情報収集を行うなど、活動の実施に向けて検討中である。 なお、一部の地区部会関係者が、薬やおくすり手帳などに関する勉強会・研修会を年2・3回開催する取組みを行っている。	
5 相談体制、 情報提供の場 づくり	15 相談体制・情報提供の 充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に民生委員や町内自治会役員、マンションの管理人が対応している。	
	16 福祉情報紙の充実と「中 央区ふくし・防災ガイド& マップ」の活用	・「ちばみなと.jp」と連携し、地域のイベント情報の発信に努めている。 ・地区部会だよりを年1回発行した。	
6 福祉教育の 推進	17 地域での福祉教育の推 進	・町内自治会のクリーンアップ作戦に子どもたちが参加し、地域の一員として活動している。 ・地域のセーフティウォッチャーが、児童・生徒に対し、挨拶などの声掛けを通して、児童・生徒に対する福祉教育・情操教育を行っている。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 千葉みなと地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
7 人にやさしい 生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・地域でセーフティウォッチャーに協力している。 ・こども110番のいえに、地域住民・店舗・企業・マンション管理組合が協力している。 ・地区部会がセーフティウォッチャーやこども110番のいえの協力者募集のポスターを作成し、協力者の確保に協力している。 ・一部の町内自治会では、月1回、防犯パトロールを実施している。 ・問屋町・千葉港東地区自治会が、防犯カメラや防犯パトロールののぼり旗を設置している。	
	19 防災体制の充実	避難所運営委員会では、災害時の対応を協議するため、隔月で定例会議を開催するとともに、年1回、避難所開設訓練を行った。 また、各マンションでトランシーバーを導入し、災害時の支援体制を整備するとともに、使い方についての訓練を実施した。 各マンションでは、年1回、消防による初期消火訓練等の防災訓練を実施した。	災害時への対応に関する会議の開催や各種訓練の実施を通して、地域住民が災害時において円滑に避難等ができるよう努めたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 蘇我地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・地域ケア会議は、新型コロナの影響で実施できなかった。 ただし、民児協定例会(月1回)の会議に、あんしんケアセンター職員にも参加していただき、問題点の共有化を図った。 ・また、コミュニティ懇談会【地域運営委員会】(年4回)や青少年育成委員会(年6回)に参加し、地域課題について情報交換を行うとともに、地区部会の会議や活動を通じて関係団体との連携を図った。 ・介護付有料老人ホーム「そんぽの家 蘇我」と地域が連携した取り組みについて協議した結果、これまで施設を利用し開催してきた高齢者の集いの場については、新型コロナやインフルエンザの感染状況などを鑑み、当面の間中止することとなった。	地域での各種会議を通して、地域の各種団体の強みを活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域課題の解決に向けて各種団体の連携を図るよう努めたい。
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・地域の個別ニーズに対しては、主に民生委員や地区部会が対応している。	
	3 見守り体制をつくる	・地区部会が、地区内の8町内自治会を通じて町内自治会加入の全世帯を対象に配布している「冷蔵庫保管用安心カード」については、記載内容の見直しを行い、町内自治会を通じて配布した。 ・また、町内自治会未加入の75歳以上のひとり暮らし高齢者については、民生委員の協力を得て、5月の「高齢者実態調査」の際に配布した。 ・地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携したが、実施予定だった「地域見守り活動～オレンジフェスティバル～」は中止となった。	地域の見守り活動を通して、災害発生時に円滑に避難ができるような地域づくりに努めたい。
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区内4か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が、九都県市防災訓練の実施日に合わせ、避難所の設備・備品の点検等を行った。 ・訓練の際は、福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を加え改定した避難所運営マニュアルを活用するとともに、マニュアルの修正が必要な箇所を改正した。 ・地区部会として、消防署の方を招いて講演会を実施した。	
	5 すべての子どもを地域で育てる	・子どもたちの安全を守るため、「セーフティウォッチャー」や「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。 ・また、不審者対応として、青色回転灯装着車によるパトロールも計画どおり実施するとともに、パトロール活動への支援として、若干のガソリン代の支給やドライブレコーダーの貸与等を実施した。 ・地区部会が蘇我小学校から依頼を受ける、年1回の「昔あそび」のゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、蘇我小学校で全学年を対象に月1回実施している「わくわくキャンパス」に、内容に応じて参加・協力した。 ・また、「ローゼンそが保育園」の昔あそびのゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、新たに認可保育園「そがチャイルドハウス」の昔遊びのゲストティーチャーとして役員が協力することとなっていたが、新型コロナの影響で実施できなかった。 ・例年、地区部会が協力し、高齢者が昔遊びの指導等に協働参画している地区の子ども会行事や、主任児童委員が中心となり蘇我小学校に週1回出向き、全学年対象に実施している「本の読み聞かせ」を実施した。	セーフティウォッチャー活動やパトロール活動、本の読み聞かせ活動などを通して、子どもたちが地域で安全かつ健やかに過ごせるような環境づくりに努めたい。
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	・地区部会が、いきいきサロンを4会場で年間各4回、計16回実施した。 ・また、健康増進のためにボッチャを試験的に4会場で各1回実施した。 ・新型プロジェクターやパソコン、体操のDVDを購入し、サロンの1会場で活用した。	いきいきサロンの実施を通して、地域の高齢者の閉じこもり防止や仲間づくり、社会参加を図る機会を設け、フレイルの予防に努めたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 蘇我地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と 仲間づくり	7 地域での健康づくり支援 の充実	例年、60歳以上の高齢者を対象に、健康維持や交流の場づくりを目的として実施している「ふれあい・散歩クラブ」「ふれあい・いきいきサロン」を実施した。 また、健康促進に関する年1回の講座、高齢者の健康増進を図るために地区部会として協力している、スポーツ振興会及び老人クラブで行っているスポーツ活動や蘇我いきいきセンターで月2回行われている健康体操を実施した。	ふれあい・散歩クラブや健康促進に関する講座等を通して、地域の高齢者の閉じこもり防止や健康の維持増進を図る機会を設け、介護・フレイルの予防に努めたい。
	8 地域でのスポーツ活動 及び文化活動の推進	・「わくわくキャンパス」に地域の全関係者が加わり実施した。 ・蘇我小学校の昔遊びのゲストティーチャーとして地区部会役員が活動した。 ・「ローゼンそが保育園」、「そがチャイルドハウス」の昔遊びのゲストティーチャーとして地区部会役員が活動する予定であったが、インフルエンザの感染状況等に鑑み、当面の間中止となった。 ・地区部会がスポーツ振興会と共同で、蘇我小地区町民運動会を実施した。 ・蘇我小学校区内の3地区にて、盆踊り大会を実施した。	
	9 子育てサロンの充実	・子育てサロンを年10回実施した。	
	10 障がい者との相互理解 と地域住民等との交流 の推進	・「コミュニティまつり」でオリーブハウスの販売ブースを設置しているが、新型コロナの影響により中止となった。 ・地区部会や町内自治会のイベントでは健常者、障がい者を問わず、誰でも気軽に参加できるようPRに努めた。 ・福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を加え改定した避難所運営マニュアルを各訓練で活用するとともに、マニュアルの修正が必要な箇所を改正した。 ・避難所運営委員会では、女性の委員を増やすとともに、障がい者や外国人にも委員としての参加を呼びかけており、一部の避難所運営委員会では障がい者や外国人が委員として参加するようになった。	
	11 世代間交流の場の提供	・3地区の町内自治会が、盆踊り等の各種イベントを開催した。	
3 社会参加の 推進	12 高齢者の地域社会での 福祉活動の促進	地区部会のボランティア委員会が、月1回、「セントケアホーム蘇我」「グループホームさくら」の2施設で行っている話し相手やイベント手伝い等の活動を予定していたが、新型コロナの影響で中止となったが、今後の訪問活動内容について調整中である。	施設への訪問活動等を通して、地域の高齢者が福祉参加に参加できる機会の創出を図りたい。
	13 障がい者の地域社会での 福祉活動の促進	(No.10と同様)	
4 地域の福祉 力向上、担い手 づくり	14 地域で福祉に関する講 座や研修会等の受講機 会の提供	・地区部会が、健康促進に関する講座を実施した。また、食育に関する講座は、令和6年度に実施することに決めた。 ・いきいきサロンでも、健康体操などのメニューを取り入れているが、新型コロナの影響により中止となった。 ・介護付有料老人ホーム「そんぽの家 蘇我」が、高齢者向けの健康体操教室を予定しており、現在調整中である。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 蘇我地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
5 相談体制、 情報提供の場 づくり	15 相談体制・情報提供の 充実	・地域内で問い合わせがあれば、個別に民生委員や町内自治会長が対応している。 ・各町内自治会からの要望や相談については、「地域ケア会議」や「学校運営評議員会」を通して、情報を共有し対応策を検討した。 ・民生委員と地区部会、あんしんケアセンターが連携し、「ふれあい公園」と「八幡公園」を会場に、気軽に相談できる環境の場を計2回実施した。	
	16 福祉情報紙の充実と「中 央区ふくし・防災ガイド& マップ」の活用	・全町内自治会で「防災マップ(危険箇所マップ)」を作成している。 ・年2回社協だよりを発行した。 ・蘇我中学校区の小・中学生と一緒に作成した「蘇我子どもマップ(子どもの目からみた安全マップ)」の内容を更新した。	
6 福祉教育の 推進	17 地域での福祉教育の推 進	・「わくわくキャンパス」に地域の全関係者が加わって実施している。 ・地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携して実施した「地域見守り活動～オレンジフェスティバル」には、淑徳大学の学生も参加を予定していたが、新型コロナの影響により中止となった。 ・主任児童委員が中心となり蘇我小学校に週1回出向き、全学年対象に実施している「本の読み聞かせ」を実施した。 ・青少年育成委員会で、地区の歴史散歩を毎年場所を変えて実施し、地域の歴史を理解し、地域を好きになってもらう事業を実施した。 ・蘇我中学校1年生を対象に、「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書の勧めと感想文募集を継続実施し、全員の感想文が寄せられた。 ・地区部会が、健康促進に関する講座を実施した。また、食育に関する講座は、令和6年度に実施することに決めた。 ・いきいきサロンを実施し、その中で健康体操などのメニューを取り入れた。 ・子ども会では、地域リーダーを養成するための講習会を開催し、受講者の中には成人後も子ども会行事を手伝っている人もいる。	
7 人にやさしい 生活環境づくり	18 防犯対策の推進	例年、民生委員定例会や地域ケア会議、いきいきサロンで実施している「振り込め詐欺の対応や防止策」等についての講座を実施した。 育成委員会では、青色パトロールを各町内自治会で週割し、実施した。 第9地区連協では、49町内自治会のうち41町内自治会が防犯パトロール隊を結成し、パトロールを実施した。 移動交番が、蘇我コミュニティセンターや東武ストア蘇我店に開設されている。 蘇我中学校区の小・中学生と一緒に作成した「子どもの目からみた安全マップ」を広報紙に掲載している。 地域住民が「こども110番のいえ」に協力している。 PTAが学校の長期休暇に合わせ、防犯パトロールを兼ねて実施している地区内一斉点検に地区部会が協力した。	防犯パトロールをはじめとした防犯活動を通して、地域住民が安心して生活できるよう努めたい。
	19 防災体制の充実	・各町内自治会の自主防災会でそれぞれ活動した。 ・第9地区連で10か所の避難所で運営組織を立ち上げ、各避難所の特性を考慮したマニュアルを作成し、地域の実情に合わせた運営ができるような体制をつくっている。 ・千葉工業高校を会場として、5町会による防災訓練を開催し、訓練には生徒や教員、地域住民が参加した。 ・地域運営委員会が必要に応じ、防災講座を開催した。 ・地区内4か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が、九都県市防災訓練の実施日に合わせ、避難所の設備・備品の点検等を行った。 ・令和6年度は、千葉工業高校と災害時に備えた炊き出し訓練を予定している。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 白旗台地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	(1)地域運営委員会機能も有するコミュニティづくり懇談会では、コロナの万全な対策を取って3回の懇談会開催を予定したが、3回目の講師が見つからず本年度は2回の開催となった。 9月16日の第1回では「自転車の安全利用と走行環境の整備について」と題して道路部自転車政策課の石黒課長から説明を受け、自転車の安全利用を中心に質疑を行った(参加者68名)。 12月2日の2回目は「最近の犯罪の特徴と対策」と題して中央署生活安全課の中川係長から説明を受けた。活発な質疑があり理解を深めた(参加者83名) 3回目は「町内自治会等のデジタル活用について」を計画したが、担当部課から適当な講師がいらないとのことで中止とした。なお、新年会を1月20日に開催し、70名の参加で懇親を深められた。又地域全体の活動支援テーマとして避難所の充実と青色回転灯パトロール活動の支援を決定した。 (2)避難所の立上げ訓練等は千葉市の計画日である8/27に7か所ある避難所の大半で実施し、本年は多くの避難所で避難訓練・避難所の立上げ運営訓練が実施でき、更に講演会やAED・応急処置訓練・消火訓練等も行なわれた。 (3)青色回転灯装着車によるパトロール活動については、学校のある日には毎日3台程度でパトロールをほぼ実施できた。不審者の出没抑え込み状況は目標値を少しオーバーしたがまずまずの状況で、又内容として特に心配する不審者情報は0件に減らすことができた。 (4)避難所備蓄品の充実については、エアーマットとトイレキットを購入し7か所の避難所の全てに市の配布品とは別に配布することができた。	(1)地域運営委員会機能も有するコミュニティづくり懇談会で地域課題を解決するため、懇談会テーマおよび活動支援テーマを年初に決め実施する。 (2)コミュニティづくり懇談会や地区部会の主な会には行政やあんしんケアセンター、社協等にも参加してもらい、地域課題解決に向け連携強化を図る。
	2 支え合い活動の仕組みづくり	(1)令和5年度もコロナ問題を引きずり「生活必須」のゴミ出しが大半となった。支援対象を広げることにについては、まだ積極的には取り組めなかった。 (2)活動件数は501件(41.75件/月)で目標値の40件/月を達成することができた。年度初めの4～6月が少し少なかったが、その後は目標値をクリアしている。 (3)7/2の理事会後に「地域支え合い活動事業・きずな隊」の研修会を実施した。又協力者の見直しは随時行えた。	(1)住民アンケート等で明らかになった地域の生活課題を解決するために設けた、地域支え合い活動事業「きずな隊」の拡充・強化をはかる。 (2)地域支え合い活動の担い手の新たな確保・更新を実施する。 (3)地域支え合い活動推進の為、必要な会議を開き、PR活動等も行う。
	3 見守り体制をつくる	(1)地区部会を構成する41町内自治会すべてで実施することができた。 (2)活動内容としてはコロナ禍でいろいろ苦労があったが、防犯パトロール活動と連携した「さりげない見守り」を中心に、ほぼ計画どおり継続して実施できたところが多かった。 (3)3月の理事会で実施状況情報交換会を実施した。 (4)広報誌(部会だより)に記事を書き広報活動も実施した。	(1)日頃の生活の中でさりげない見守りを継続して実施する。 (2)重点見守り対象者、その支援者をできるだけ定めて、もれのない見守りも実施する。 (3)あんしんカード等に必要事項を記載して避難に備えるよう働きかける。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 白旗台地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	(1)本年は多くの避難所で一般市民を対象とした避難訓練を4年ぶりに8/27を中心に実施できた。更にAED、応急救治訓練、消火訓練、地震等の体験、講演会等を避難所ごとに選定して実施できた。要支援者の参加は高齢者を中心に各避難所とも認められたが、重度の方の参加はなかった。又ケアマネジャーからの相談を受けた報告はないが、町内自治会によっては、要支援避難者・支援者をきちんと決め、周知しているところも認められた。 (2)マニュアルの見直しも、避難所ごとに必要に応じた見直し等を行った。	(1)既に全地域で設置している避難所運営委員会では、1回/年以上一般市民を含めた避難訓練・避難所立上げ・運営訓練を実施する。 (2)各町内自治会で独自の要支援避難者、支援者名簿を作成し安否確認や支援体制を明確にする。 (3)各避難所では運営マニュアルの見直し確認を毎年行う。 (4)出来るだけ避難訓練実施時に講演会や各種訓練も実施して災害に備える。
	5 すべての子どもを地域で育てる	(1)あいさつ運動やのぼり旗の更新等は、ほぼ予定どおり実施できた。又休みあけにはあいさつ運動を各地区で実施した。 (2)こども110番の家訪問・駆け込み訓練の再検討は進展しなかったが、青色回転灯装備車によるパトロールは1の(3)のとおり実施できた。また、パトロール車への若干の補助は本年も計画通り実施することができた。 (3)更に蘇我中1年生全員を対象にした「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書感想文事業は本年度も1年生ほぼ全員(229名)の参加が得られ、内容もかなり充実していた。この内容について3月発行の「青少年育成委員会だより」に載せ地域にも周知した。 (4)各小ともにセーフティウォッチャー活動は活発に実施できた。 (5)通学路の安全対策も少しずつ改善できたが、むずかしい課題の改善要望等は行ってはいるが、まだ実現できていない。	(1)あいさつ運動を継続して近所の子どもと顔見知りになる。又のぼり旗の更新を適時行う。 (2)学校とも連携し、セーフティウォッチャー活動、青色回転灯パトロール活動を継続する。 (3)「こども110番の家」訪問、挨拶、かけ込み訓練の実施について検討する。 (4)蘇我中1年生を対象にした「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書感想文事業を継続実施する。
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	(1)「健康」をテーマに地区部会主催で計画したいいきいきサロンは、計画した9会場すべてで実施できた。講師は中央保健福祉センター健康課より派遣された保健師、看護師等とあんしんケアセンターで実施した。 (2)各町内自治会主催のものは、コロナ感染予防対策を十分に行いながら実施できた。(12月まで合計93回)回数はほぼ以前の状況に戻ってきたが、参加人数はまだ以前より少ない状況であった。	(1)地区部会が主催する「ふれあい・いきいきサロン」を健康課等の支援を受けて9回/年程度実施する。 (2)各町内自治会等が主催する「ふれあい・いきいきサロン」の実施を働きかけ支援を行う。 (3)閉じこもりがちな高齢者等に民生委員等と連携し、参加を働きかける。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 白旗台地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と 仲間づくり	7 地域での健康づくり支援 の充実	(1)ふれあい散歩クラブ活動は、比較的多くの町内自治会で実施できた。(12月まで合計129回) (2)いきいきサロンでの健康体操についても、継続実施ができたところもあった。 (3)スポーツ振興会主催のものでは、市民体育祭は3小学校区とも再開することができた。(大巖寺小は校庭修理のため体育館でポッチャ大会実施) 各小学校区とも久しぶりの開催でかなり苦労したが実施することができた。(宮崎小は雨天で中止) (4)本年もあんしんケアセンター主催の多職種連携会議が開催されたが他行事と重なり、参加者が限定された。 (5)地区部会主催で「歯っぴー健口教室」(講師:健康課の保健師、歯科衛生士)を開催し23名の高齢者が参加。	(1)ふれあい散歩クラブ活動等活発化のため、各町内自治会等に働きかけを行う。 (2)ふれあい・いきいきサロンにおいて、介護予防や転倒防止運動を定期的の実施する。 (3)フレイル予防や健康等をテーマとした研修会等を開催する。 (4)スポーツ振興会が主催するスポーツ大会や歴史散歩等の文化活動に、より多くの人が参加するように働きかける。
	8 地域でのスポーツ活動 及び文化活動の推進	(1)蘇我中地区の伝統行事にもなっていた「蘇我の歴史散歩」については、本年度は新しい歴史を作り始めているロックフェスティバルについて「大規模ロックフェスティバルの舞台裏」と題し、研修会に切りかえて実施した。 (2)「放課後ども教室」は本年度、3小学校で実施した。大森小については本年度よりアフタースクールに切りかわった。 (3)スポーツ振興会の市民体育祭は7の(3)のとおり実施できた。又他のスポーツ大会も概ね従来に近い内容で実施できた。 (4)屋内のスポーツイベントについてもほぼ従来のレベルに戻すことができた。	(1)スポーツ振興会主催のスポーツ大会等を支援し、活発化を図る。 (2)歴史散歩等の文化事業を支援し活発化を図る。 (3)高齢者から子どもまで参加して楽しめる「ふれあいひろば」を1回/年開催する。
	9 子育てサロンの充実	(1)コロナの対策をしっかりとりながら計画どおり(4回/月)実施できた。 参加者は若干減少したが、以前のペースに近づきつつあった。 (2)赤ちゃんのための防災教室(講師:防災対策課須崎氏)も開催し、0～3歳児と保護者等20名が参加した。	(1)地区部会が主催する子育てサロンを2回/月以上開催する。 (2)この中で研修会等も開催し内容の充実を図る。 (3)広報誌等を活用してPR活動を行い参加者の増を図る。
	10 障がい者との相互理解 と地域住民等との交流 の推進	(1)障がい者対応としては、避難所訓練や地区部会「ふれあいひろば」等の地域行事への参加を予定していたが明確な障がい者の参加はごく少数であった。 (2)それでも避難所の運営委員については女性委員の比率が高まり、また障がい者や外国人が委員になって交流を深められるような避難所が増えてきた。 (3)地区部会では障害者福祉委員会のボランティア講座として「障害福祉事業の歴史と現在の課題」と題し、社会福祉法人みらい工房の平井理事長を講師に迎え43名が参加して講演会を開催した。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 白旗台地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と仲間づくり	11 世代間交流の場の提供	(1)子育てサロンをほぼ計画通りに開催し、高齢者スタッフ等を含め幅広い世代間交流はできたが、いきいきサロン等との交流等は進展しなかった。 (2)地域での世代間交流の場である盆踊りや社協まつりについては、ほぼ再開することができたが、盆踊りについてはまだ半分ほどに留まった。 (3)子どもたちや子育て世代が中心となって敬老会を実施し、世代間交流を図る地区もできた。	
3 社会参加の推進	12 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	(1)総合的にみて好ましいかは別として、地区部会をはじめ地域の各種団体の福祉課題の取組において、高齢者の活動は確実に増加し、又その比率も高まってきた。 (2)老人クラブやサークルの福祉施設慰問は、活動団体が十分に復帰しておらず、又福祉施設側の心配もありほとんど実施できなかった。 (3)身近な見守り活動や地域支え合い活動においても、支援者の中の高齢者の比率は確実に高まってきた。	
	13 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	(1)ふれあいひろばや障がい者も参加する避難訓練は実施できたが、参加数は若干少なかった。それでも避難所運営委員に障がい者になるケースもあり、活動の範囲は広がりつつある。 (2)障がい者の避難に不安を持つ方も多く、問い合わせや話し合いの場を持つケースも認められたが、障がい者が他の障がい者の為に改善要望する等はまだなかった。	
4 地域の福祉力向上、担い手づくり	14 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	(1)地区部会主催の研修会を5回(7/2、11/12、11/20、1/17、2/15)実施できた。 (2)コミュニティづくり懇談会では地域福祉活動に関する部分も一部取り入れた懇談会を、コロナ対策を行った上で2回実施し、合わせて151名が参加した。 また、懇談会の内容を「コミ懇だより」に掲載し各家庭に回覧した。 (3)各町内自治会等でも、出前講座等で福祉に関係する研修会等は実施できたが、まだごく一部に限られていた。	(1)地区部会が主催する研修会、講演会を各委員会担当のものを含め5回/年程度実施する。 (2)コミュニティづくり懇談会では2～3回/年、コミュニティ懇談会を開催する。 (3)こうした研修会、講演会、懇談会には地域住民にもできるだけ参加を呼びかける。 (4)地区部会主催のふれあいひろばを1回/年開催し、地域住民や小中学生に来場を呼び掛けるとともに、小中学生がスタッフとして参画することを検討する。
5 相談体制、情報提供の場づくり	15 相談体制・情報提供の充実	(1)地域住民等から寄せられる相談は、地区部会役員や町内自治会役員・民生委員等が個別又は共同で対応してきたが、相談件数、情報提供件数は増加傾向が続いている。 (2)相談や情報提供を受けたもののうち、行政やあんしんケアセンター、社協等へつないだ件数も多くなってきた。	(1)地区部会や町内自治会等が開催する諸事案では、スタッフが相談に応じ、必要に応じて専門機関につなぐ等を行う。 (2)民生委員と町内自治会役員は連携を強めて、気軽に相談できる環境づくりを行う。 (3)「中央区ふくし防災ガイド&マップ」の内容の充実と更新を働きかける。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 白旗台地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
5 相談体制、 情報提供の場 づくり	16 福祉情報紙の充実と「中 央区ふくし・防災ガイド& マップ」の活用	(1)部会だよりを年1回発行している。 (2)「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」については、3年ごとの更新の年を過ぎたが、こういう時期で延期された。今後の対応について協議を行ったが明確な結論は出せなかった。 (3)地区部会の地域支え合い活動事業「きずな隊」の活動については、部会だよりでPRするとともに、町内自治会長が交替した町内自治会にも周知を再度図った(全町内自治会長等がメンバーの理事会・研修会で再徹底した)。	
6 福祉教育の 推進	17 地域での福祉教育の推 進	(1)地区部会の5つの委員会でボランティア講座を各1回開催した。 (2)蘇我中学校1年生を対象に「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書の勧めと感想文募集を継続実施し、ほぼ全員から感想文が寄せられている。 (3)青少年育成委員会で地区の歴史散歩を、毎年場所を変えて実施し、地域の歴史を理解し地域を好きになってもらう事業を実施してきた。令和5年度は蘇我で新しい歴史を作りつつあるロックフェスティバルについての講演会を実施した。 (4)すべての子どもを地域で育てる事業では、のぼり旗の更新等も行い、休みあけにはあいさつ運動を展開した。 (5)放課後子ども教室は大森小、宮崎小、大巖寺小全てで実施できた。 (6)青少年相談員が主催した中学3年生を対象にした「新しい価値観」をテーマにした標語募集結果を、青少年育成委員会だよりに掲載周知を図った。	
7 人にやさしい 生活環境づくり	18 防犯対策の推進	(1)各町内自治会による防犯パトロールについては、ほぼ例年通り実施できた。 また、コミュニティづくり懇談会では「最近の犯罪の特徴と対策」と題した講演会を開催した。 (2)青色回転灯装着車によるパトロール活動については、昨年度までと同様学校のある日には、毎日3台のペースで実施できた。不審者の出没の抑え込みでは目標値を少しオーバーしてしまったが、内容的には特に心配すべきものを0件にすることができた。	(1)各町内自治会の防犯パトロール隊については活発に活動してきたが、最近中止した所もあり実態を再調査し活性化を図る。 (2) 青色回転灯装着車によるパトロール活動を継続し、不審者出没を抑え込む。 (3)こども110番の家活動について地域や子どもたちに周知し、訪問、挨拶、かけ込み訓練の実施について検討する。 (4)講演会、研修会を開催する。
	19 防災体制の充実	(1)避難所の立上げ等の訓練は、8/27の市の訓練日を中心に一般市民の避難訓練を含めて実施できた。更に多くの避難所では、AED、応急処置訓練、消火訓練、地震等の体験、講演会等を避難所ごとに選定して実施した。 (2)マニュアルの見直しについては、避難所ごとに必要に応じた見直し等を行った。 (3)地域7か所の避難所全てにエアーマット10セット、トイレキット(調整中)を市の支給品とは別にコミコンで配布し備蓄品の充実を図った。 (4)地区部会の児童母子福祉委員会のボランティア講座として「赤ちゃんのための防災教室」を開催し、参考になる多くの話を聞き理解を深めた。	(1)地域の全避難所で避難訓練を実施する。 (2)防災会未設置の町内自治会に、設置の働きかけを行い防災訓練も実施する。 (3)避難所の備蓄品の充実を図る。 (4)防災に関する研修会、講演会を開催する。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 生浜地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・「生浜地区地域運営委員会」の4部会、「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」、「スポーツ部会」で、それぞれ活動を実施した。	「生浜地区地域運営委員会」の4部会、「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」、「スポーツ部会」が連携を図りつつ、活動を実施していきたい。
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・支え合い活動の実施に向け、協議を検討したものの、協議の再開はできなかった。	地域住民の生活課題の解決を図れるよう、支え合い活動の仕組みづくりについての協議を再開していきたい。
	3 見守り体制をつくる	・民生委員が中心となり、見守り活動を実施した。	見守り活動を通して、災害発生時においても円滑な避難ができるよう地域づくりに努めるとともに、活動を町内自治会に広げていきたい。
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・特別な訓練は実施できなかったものの、自然災害発生時の合同防災訓練(風水害の対応等)を実施した。 ・「第44回 九都県市合同防災訓練」の日にあわせて、避難所運営委員の行動の共有化を図るとともに、備品の点検を実施した。 ・避難所における感染対策の検討を行った。	特に支援を必要とする地域住民が災害発生時においても円滑な避難ができるよう、防災部会で協議を行っていきたい。
	5 すべての子どもを地域で育てる	・生浜地区の防犯パトロールを実施した。 ・学校が主体となって実施しているセーフティウォッチャーに地域住民が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んだ。	生浜地区の防犯パトロールやセーフティウォッチャーによる登下校時の児童の見守りを通して、子どもあっちが地域の中で安全に過ごせるよう環境づくりに努めたい。
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	・令和5年6月より、いきいきサロンを5か所で計35回実施した。 ・老人クラブでは、グラウンドゴルフや輪投げ、ダーツ等の行事を開催した。	いきいきサロンの実施を通して、高齢者が身近なところで集い、交流する場所の機会の充実を図り、閉じこもり防止や仲間づくり、社会参加を図る機会を設け、フレイル予防に努めたい。
	7 地域での健康づくり支援の充実	・「いきいき健康体操教室」を5か所で計70回実施した。	いきいき健康体操教室を実施を通して、地域の高齢者の閉じこもり防止や仲間づくり、健康の維持増進を図る機会を設け、介護やフレイルの予防に努めたい。
	8 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・11月に「生浜地区体育祭」を実施した。 ・育成委員会が「子どもふれあい祭り」を開催し、地区部会として体験コーナーを設けて参加した。	「生浜地区体育祭」や育成委員会の「子どもふれあい祭り」の実施を通して、世代を超えたスポーツ活動・文化活動による交流の場を設け、子どもたちの健全育成を図りたい。
	9 子育てサロンの充実	・「子育てサロン」を3か所で計22回実施した。 ・幼稚園、保育所、保育園との情報交換会を実施した。	「子育てサロン」の実施等を通して、子育て中の親子の仲間づくりの場と機会を拡充できるよう努めたい。
	10 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・地区部会の障害者委員会が中心となり、7月から障害者福祉施設「こころふる浜野」での支援活動を行った。 ・生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車いす体験やボッチャ体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。	障害者福祉施設での支援活動や障がいに関する学習の機会の場の提供を通して、地域住民の障がい者に対する意識の高揚を図れるよう努めたい。
	11 世代間交流の場の提供	・生浜地区内のイベント(地域の体育祭・盆踊り・お祭り)を実施した。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 生浜地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
3 社会参加の推進	12 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・受け入れ可能な福祉施設へのボランティア活動を実施した。 ・地区部会や町内自治会等、地域団体の役員になっている高齢者は、地域行事でスタッフとして活動している。 ・「セーフティウォッチャー」に地域の高齢者が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んでいる。	
	13 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・地域行事(盆踊り)の参加は、インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症を考え、障害者施設側より中止との申し出があったため、実施できなかった。	
4 地域の福祉力向上、担い手づくり	14 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車いす体験やボッチャ体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。	
5 相談体制、情報提供の場づくり	15 相談体制・情報提供の充実	・ふれあい・いきいきサロンや子育てサロンの中で、個別に取り組んだ。	
	16 福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	・地域福祉に関する情報を住民に提供する「地区部会だより」を年3回発行した。カラー印刷にし、紙面の充実を図った。	
6 福祉教育の推進	17 地域での福祉教育の推進	・各町内自治会で実施している「敬老のつどい」に中学生がボランティアとして参加し、中学生との「福祉のこころ」を育む機会となった。 ・生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車いす体験やボッチャ体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。	
7 人にやさしい生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・地区部会が、熟年者を対象とした「電話で詐欺防止講習会」を実施した。 ・防犯パトロールを組織化している町内自治会では、定期的にパトロールを実施した。	
	19 防災体制の充実	・自然災害発生時の合同防災訓練(風水害の対応等)を実施した。 ・避難所における感染対策の検討を行った。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 松波地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・民児協、町会長やスポーツ振興会など地区部会の役員となっており、横の連携はとれている。 ・地域の大きな行事の際は、松波町会、第114地区民児協、商工振興会、子ども会、シニアクラブを含め、地域の関係団体が集まって打ち合わせを行っている。	
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・松波会館が地域の拠点となっており、10:00～15:00に事務ボランティアが常駐し対応している。 ・町会有志で「お助けマンクラブ」として草取り、剪定、ゴミだし作業のサービスをしている。	
	3 見守り体制をつくる	・「松波見守り隊」を発足し活動しているが、今後見直しを行い、実情にあった活動を検討中である。	
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・町会の防犯防災部が中心となり年末の夜警を実施した。 ・毎年、松波自主防災会が主催で「防災訓練」を実施し、地区部会、消防団、民生委員・児童委員が協力して訓練を実施している。 ・千葉商業高校の避難所運営委員会が行う避難所開設訓練に、地区部会として協力している。	
	5 すべての子どもを地域で育てる	・毎年、町会主催「餅つき大会」や弥生小スポーツ振興会主催「弥生小学校地区体育祭」に地区部会が協力事業として活動している。 ・民生委員や地区部会役員が中心となり毎朝、登校時に2か所で声かけを実施している(弥生小セーフティウォッチャー)。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。 ・地区部会と第114地区民児協、松波町会が連携して、多世代交流の輪が広がる「地域食堂 松波のちゃぶ台」を月2回実施している。実施にあたっては、千葉経済大学や千葉経済大学附属高校の学生・生徒も一緒に活動している。	
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	いきいきサロンは、グラウンドゴルフ(雨天及び学校の長期休暇期間は休み)を松波公園で週2回開催するとともに、松波会館で脳トレ会、ウクレレ会を月2回、卓球会を週1回開催し、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図っている。	
	7 地域での健康づくり支援の充実	・地区部会が「散歩クラブ」を月1回実施している。地区部会役員の中に看護師が3名いるため、開催時には血圧測定を行い、健康と安全管理に注意している。 ・弥生小スポーツ振興会がグラウンド・ゴルフを定期的で開催している。 ・地区部会が主催となり、多世代間交流の場「ドッキングプレイス」の中で、ボッチャと輪投げを実施した。幼児から高齢者まで、30名程度の方が参加した。	
	8 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・地域で開催している「夏祭り」で地区部会として模擬店を出店し、多くの子どもと触れ合っている。 ・毎年、町会主催「餅つき大会」や弥生小スポーツ振興会主催「弥生小学校区体育祭」に地区部会が協力事業として活動している。 ・地区部会が主催となり、多世代間交流の場「ドッキングプレイス」の中で、ボッチャと輪投げを実施した。幼児から高齢者まで、30名程度の方が参加した。	
	9 子育てサロンの充実	地区部会が、子育て中の親子を対象に、月2回、工作、季節のイベントや、中央区健康課の保健師、栄養士、歯科衛生士による指導、スタッフ(助産師)による育児相談等を内容とした子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度） 松波地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定（案） 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と仲間づくり	10 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・年末に、80歳以上の独居高齢者を対象としたプレゼント用に、オリーブハウスでクッキー（100個）を購入し、販売促進に協力している。	
	11 世代間交流の場の提供	・地区部会が主催となり、多世代間交流の場「ドッキングプレイス」の中で、ボッチャと輪投げを実施した。幼児から高齢者まで、30名程度の方が参加した。 ・地区部会と第114地区民児協、松波町会が連携して、多世代交流の輪が広がる「地域食堂 松波のちゃぶ台」を月2回実施している。実施にあたっては、千葉経済大学や千葉経済大学附属高校の学生・生徒も一緒に活動している。	地域食堂「松波のちゃぶ台」や「ドッキングプレイス」の実施などを通して、地域住民が世代の枠を超えて交流できる機会の創出を図りたい。
3 社会参加の推進	12 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・ふれあい事業や敬老会、夏祭り、防災訓練など、高齢者が深くかかわり活動する機会を提供している。	
	13 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	・年末に、80歳以上の独居高齢者を対象としたプレゼント用に、オリーブハウスでクッキー（100個）を購入し、販売促進に協力している。	
4 地域の福祉力向上、担い手づくり	14 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・松波町会が主催となり、11月にロコモ予防教室を実施した。	
5 相談体制、情報提供の場づくり	15 相談体制・情報提供の充実	・松波会館が地域の拠点となっており、10:00～15:00に事務ボランティアが常駐しているため、内容により対応可能である。 ・相談があれば、地区部会もしくは町会を通して、可能であれば対応している。 ・民生委員・児童委員も個別で相談に対応している。 ・ホームページにより、地域情報を発信している。	
	16 福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	地区部会が、地域住民を対象に、地区部会活動の紹介と啓発、会員の募集状況等の報告、毎月の地区部会事業の日程の周知やボランティア募集を図るため、社協だよりを、年4回発行している。また、毎月の予定を町内掲示板を使い周知している。 ・千葉市松波町会のホームページのリンクより、「社協松波地区部会」、「お助けマンクラブ」ほか諸団体のページに飛ぶことが出来るようしており、地域情報発信の充実を図っている。	
6 福祉教育の推進	17 地域での福祉教育の推進	敬老会に、千葉商業高校の吹奏楽部が参加し、福祉の心を育む機会を設けた。 町会の夏祭りには、子どもたちが山車を一緒にひき、地域住民との交流を図ることができた。	
7 人にやさしい生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・有志が月2回、夜間パトロールを行っている。 ・移動交番が月1～2回、松波会館駐車場で活動しており、町会、民生委員・児童委員、地区部会と情報交換している。警察から防犯に関する注意喚起の情報提供をいただいている。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力している。 ・民生委員や地区部会役員が中心となり毎朝、登校時に2か所で声かけを実施している（弥生小セーフティウォッチャー）。	
	19 防災体制の充実	（No.4と同様）	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 松ヶ丘地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・「松ヶ丘中学校地区地域運営委員会」が設立され、現在、地域の47団体が参加している。 ・本委員会に4つの部会(円卓会議、地域問題検討部会、広報部会、ふるさとまつり部会。なお、ひだまり運営部会は平成28年度から独立した。)を設け、ホームページによる地域行事等の情報発信、ふるさとまつりの開催など、諸事業に取り組むとともに、円卓会議を月1回開催し、構成団体が、地区の課題や情報を共有した。 ・特に重要な地域課題については、地域問題検討部会(年4回)において、地区の将来像や地域の実情に合った活動について話し合い、継続的、計画的な住民同士の「助けあい・支えあい」による地域運営に取り組んだ。 ・地域の各団体の関係が密になり、地域の様々なイベントにおいて協力体制が整ってきており、効果が表れている。 ・地区部会の会議や活動を通じて関係団体との連携を図っている。	
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・地区部会が、高齢者等を対象に、雑草取り、刈り込み、立木の一部伐採作業等をお手伝いし、ひとり暮らし高齢者等の生活の一部を支援した。 ・地区部会スタッフを中心とした「ひだまり運営委員会」が、住民が気軽に立ち寄れる地域の交流の場を運営した。 ・地区部会が、ふれあい食事サービスを年3回実施した。(1回あたり200食) ・地域住民が気軽に集まり、誰もが参加できる集い・交流の場を設けた。	
	3 見守り体制をつくる	・地区部会が、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方などのうち、見守りを希望する方(手上げ方式)及び見守りが必要と思われる方に対し、目配りや電話による安否確認を実施し、継続した見守りに取り組んだ。 ・また、町内自治会や協力員に対し研修会を実施し、見守り活動に対する理解を深めることができた。 ・定例理事会を開催し、毎月活動報告を行っている。	ひとり暮らし高齢者等に対する見守りを通して、災害発生時においても円滑な避難ができるような地域づくりに努めたい。
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区内の避難所4か所すべてに「避難所運営委員会」が設置されており、避難所運営委員会ごとに訓練を実施した。 ・松ヶ丘地区独自の「自主防災・防犯の会」が、地区全体の防災研修会や防災訓練を年2回以上実施した。 ・各町内自治会に自主防災会が組織されており、自主防災会ごとに年2回以上の訓練は実施した。	
	5 すべての子どもを地域で育てる	・セーフティウォッチャーは、毎日の下校時、町内自治会長を中心とした各町会(各町会5人程度)が協力している。 ・有志の方が、朝、あいさつ運動を実施している。 ・地区部会のネットワーク委員会が、月・水・金曜日の下校時、青色パトロール車1台で、地区内(主に裏通り)を巡回し、声かけを主体にパトロールしている。また、自主防災・防犯の会も青色パトロール車でパトロールを行っており、地区全体で10台の車両でパトロールを実施した。 ・「こども110番のいえ」にも、地域の方(約180件)に協力いただいている。 ・PTA、地域と小学校が連携し、5年生が里山事業(田植え～稲刈り、竹の子掘り等)を実施した。 ・育成委員会と各種団体が連携し、「子どもの広場(年1回から2回に増加)」や「子ども夏まつり」、「新春マラソン大会」を実施し、また、松ヶ丘小・仁戸名小・松ヶ丘中・淑徳大学で昔あそびを教えた。 ・「子ども食堂」を月1回実施した。 ・活動拠点「ひだまり」で『どこでもこどもカフェ』を開設し、放課後の児童の健全育成や居場所の提供を図った。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 松ヶ丘地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と 仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	・地域交流の拠点として「ひだまり」を運営し、月～土曜日、役員が当番制で常駐している。誰もがいつでも立ち寄り、地域住民の交流の場となっている。 ・いきいきサロン(高齢者福祉委員会)を年6回、3会場で開催した。また、活動拠点「ひだまり」にて『ゆうあいひろば』を月1回(祝日は休み)開催した。年々参加者が増加している。 ・活動拠点「ひだまり」で、『カラオケサロン(毎月第2・第4火曜日)』を開催し、地域住民の交流の機会を提供した。	
	7 地域での健康づくり支援の充実	地区部会では、「いきいきサロン」や高齢者向けの集いの場「ゆうあいひろば」のメニューとして淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、介護予防やひきこもり防止の講話(相談含む)を行った。 また、「いきいき散歩クラブ(高齢者福祉委員会)」を月2回開催した。 さらに、千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、松ヶ丘公民館(週1回)、恵光園(週1回)、仁戸名自治会館(週1回)、第3公園(週1回)でシニアリーダー体操を実施し、高齢者の健康維持・増進を図った。 あんしんケアセンターでは、さくら会館で健康体操を実施した。 各町内自治会では、有志によるグラウンドゴルフは盛んに行われ、大会を年3回開催している 他、スポーツ振興会が年2回、大会を開催した。 「淑徳大学看護栄養学部」と「ひだまり運営委員会」が連携し、「淑徳オレンジカフェ」を月1回開催した。	「いきいき散歩クラブ」や「シニアリーダー体操」の実施などを通して、地域高齢者の閉じこもり防止や仲間づくり及び健康の維持増進を図る機会を設け、介護・フレイルの予防に努めたい。
	8 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・PTA、地域と小学校が連携し、5年生が里山事業(田植え～稲刈り、竹の子掘り等)を実施した。 ・育成委員会と各種団体が連携し、「子どもの広場(年1回から2回に増加)」や「子ども夏まつり」、「新春マラソン大会」を実施し、また、松ヶ丘小・仁戸名小・松ヶ丘中・淑徳大学で昔あそびを教えている。	
	9 子育てサロンの充実	・子育てサロン(児童母子福祉委員会)を年9回実施した。毎年、淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、幼児相談や母親相談を取り入れて活動した。 - 今後とも同学部と連携、協力し継続する。	
	10 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	・自治会関係者等を対象に、車椅子講習会を実施した。 ・小・中学生を対象にした車いす体験を実施していく予定である。	
	11 世代間交流の場の提供	・地区部会スタッフを中心とした「ひだまり運営委員会」が、月曜日から土曜日の間、役員が当番制で開設し、誰もがいつでも立ち寄れる地域住民の交流の場を提供した。高齢者の交流を中心に、小、中学生の自習や友人との交流の場として利用されている。地域の各種団体の会議やイベント、親睦の場としても使用されており、他地区からの見学も増えている。 ・毎週金曜日の17:00～20:00に「ひだまり」で「大人の時間」を実施し、地域住民の交流の場を提供している。地域のことについて意見交換を行い、意思疎通を図っている。 ・地域運営委員会が「ふるさとまつり」を実施し、誰でも参加できるイベントで交流を図った。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 松ヶ丘地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
3 社会参加の推進	12 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	・民生委員が中心となり、都苑への施設見学や手伝いを行った。 ・地域の高齢者が「お助け隊」のボランティアとなり、活動を行っている。また、地域行事には、高齢者がボランティアとして参加している。	
	13 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	(No.10と同様)	
4 地域の福祉力向上、担い手づくり	14 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	・年2回、ボランティア委員会で講座を実施している。 ・淑徳大学看護栄養学部と連携し、「ひだまり」で月2回(第1・第3月曜日)、健康や栄養相談を実施している。 ・月1回開催している「淑徳オレンジカフェ」では、認知症に関する理解の普及に努めている。 ・あんしんケアセンターと協力して、認知症サポーター研修を松ヶ丘公民館で実施した。	
5 相談体制、情報提供の場づくり	15 相談体制・情報提供の充実	・松ヶ丘中学校区地域運営委員会が毎月開催している「円卓会議」で各団体のイベントや活動の情報収集及びPRに努め、運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載するとともに、「ひだまり」にサークル紹介や各団体のチラシを掲載、配布して情報発信に努めた。 また、地区部会でもホームページを開設し、情報発信を行っている。 なお、「ひだまり」に役員が当番制で常駐し、問い合わせに対応し、その場で回答できないものは関係団体から回答する体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境づくりに取り組んだ。 ・毎週金曜日の17:00～20:00に「ひだまり」で「大人の時間」を実施し、地域住民の交流の場を提供している中で、悩みなどの相談に応じた。	「ひだまり」における相談できる環境づくりや地域の情報発信などを通して、福祉に関して気軽に相談に乗るとともに地域住民がより適切に情報を入手する機会を設け、地域での孤立化の帽子を脱れるよう努めたい。
	16 福祉情報紙の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	・年3回社協だよりを発行し、地域の協力者を通じて全戸配布している。 ・「ひだまり」にも、市の便利帳や各種情報を掲載している冊子を置いている。 ・松ヶ丘小学校地区の町内自治会の「防災マップ」を作成している。 ・松ヶ丘中学校地区地域運営委員会が運用するホームページにより地域のイベントや出来事を掲載し、情報発信に努めた。 ・松ヶ丘地区部会のホームページを開設し、情報発信を行っている。	
6 福祉教育の推進	17 地域での福祉教育の推進	・ジュニアボランティア隊を結成し、各イベントの手伝いを行っている。 ・淑徳大学看護栄養学部の学生と高齢者との意見交換会を実施した。 ・地区部会が、淑徳大学看護栄養学部の学生に、看護実習などの際、高齢者とのコミュニケーション手段として役立ててもらうため、年1～2回、昔遊び等を教えている。 ・放課後子ども教室に地域住民が協力している。 ・松ヶ丘小3年生、仁戸名小5～6年生に地域の歴史や昔話を伝える授業に、地区部会が協力している。 ・松ヶ丘小学校が「まち探検」を行っており、地域の方が質問に答える等、協力している。 ・年2回、ボランティア委員会で講座を実施した。 ・松ヶ丘小の地域の様々なボランティアの話を聞く授業に協力している。 ・淑徳大学看護栄養学部と連携し、「ひだまり」で月2回、健康や栄養相談を実施している。 ・月1回開催している「淑徳オレンジカフェ」では、認知症に関する理解の普及に努めている。 ・あんしんケアセンターと協力して、認知症サポーター研修を松ヶ丘公民館で実施した。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 松ヶ丘地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
7 人にやさしい 生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・「まちの交番」として移動交番が月1回、「ひだまり」を利用している。 ・自主防災会が、青色パトロール車(10台)で毎週土曜日に巡回活動を行っている。 ・地区部会のネットワーク委員会が月・水・金曜日の下校時、青色パトロール車1台で、地区内(主に裏通り)を巡回し、声かけを主体にパトロールしている。 ・「こども110番のいえ」にも地域の方(約180件)に協力いただいている。	
	19 防災体制の充実	(No.4と同様)	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 川戸地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	例年、地区部会が主催する行事や活動は、今年度においてもコミュニティ懇談会、第21地区連絡協議会、民生委員・児童委員協議会、スポーツ振興会、PTA、子ども会など、各種地域の関係団体の協力を得て実施している。 ・いきいき活動(バス研修日帰り旅行)を6月に実施した。 ・高齢者等のちょっとした困りごとの手伝いをする「お助け隊」を16件実施した。 ・地域の高齢者や障がいのある方を対象とした見守り隊活動を実施した。 ・ふれあい食事サービスを川戸公民館で5月に実施した。 ・敬老会を「淑徳大学第2キャンパス」で開催した。 ・福祉バザーを川戸公民館で10月に開催した。	川戸地区の各種団体の強みを活かし、地域課題の解決に向けて連携を図りながら、各種事業の実施に努めたい。
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・地区部会が高齢者や障がいのある方を対象に、簡易な草取り、話し相手等、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」を継続しており、令和5年度は16件実施した。	
	3 見守り体制をつくる	地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、日常的な目配りや声掛けによる安否確認等を行い、安心して地域で暮らせるよう、毎日、または定期的に見守り活動を実施した。また、見守り報告会については、9月、3月に実施した。	公的機関やあんしんケアセンターと連携した見守り活動を通して、災害発生時においても円滑な避難ができるような地域づくりに努めたい。 見守り報告会については、9月、3月の実施を予定している。
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区内の3か所の避難所すべてに避難所運営委員会があり、避難訓練を実施した。 ・町内自治会単位で防犯パトロールや防災訓練を実施した。 ・地区部会の災害時の支援としては、火災や災害の被害にあった方に対し、見舞金制度を設けているが、令和5年度は見舞金の支払いはなかった。	
	5 すべての子どもを地域で育てる	・育成委員会が実施している年2回のパトロールに協力した。 ・例年9月に川戸小学校、川戸中学校、川戸保育所地区の清掃活動をPTAが実施しているが、今年度は雨天のため中止となった。 ・子育てサロン「もーもークラブ」を年9回実施した。 ・敬老会には、千葉南高校、川戸中学校、川戸小学校の児童・生徒や地域の各種団体が参加し交流を図っているが、令和5年度は川戸小・中学校の合唱、踊りの参加の実現にはいたらなかった。 ・地域住民がセーフティウォッチャーに協力した。 ・放課後子ども教室に地域住民が協力した。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。	
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	地区部会が、いきいきサロン「ひまわり会」を年12回実施した。 コロナ禍で閉じこもりの高齢者に外出・交流を図る目的で、回数を増やすとともに、会員を増やすことができた。 いきいきサロン「ひまわり会」では、スポーツ振興会の協力でボッチャを取り入れ、参加者の運動機能の向上を図った。	いきいきサロンの実施を通して、地域の高齢者の閉じこもり防止や仲間づくり、社会参加を図る機会を設け、フレイルの予防に努めたい。 いきいきサロンは、年12回の実施を予定している。
	7 地域での健康づくり支援の充実	スポーツ振興会が毎週日曜日にラジオ体操と散歩を実施した。 また、いきいきサロン「ひまわり会」では、スポーツ振興会の協力でボッチャを取り入れ、高齢者の健康維持、運動機能の増進を図った。	ラジオ体操や散歩活動、いきいきサロンにおけるボッチャなどを通して、地域の高齢者の閉じこもり防止や健康の維持増進を図る機会を設け、介護・フレイルの予防に努めたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 川戸地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と 仲間づくり	8 地域でのスポーツ活動 及び文化活動の推進	・地域の団体が「盆踊り大会」「運動会」「菊見会」「子ども会バザー」「正月の凧作り・凧揚げ」等を実施し、地区部会が協力している。	
	9 子育てサロンの充実	地区部会が、子育てサロン「もーもークラブ」を年9回実施し、子育て支援を図った。	子育てサロンの実施を通して、地域の子育て中の親子の孤立化を防止し、仲間づくりの場を設けるよう努めたい。 子育てサロンについては年9回の実施を予定している。
	10 障がい者との相互理解 と地域住民等との交流 の推進	・障害者グループホーム「リべるたす」とは、家庭ごみ廃棄、買い物支援などで交流を図っている。	
	11 世代間交流の場の提供	・敬老会は、13自治会合同で実施した。川戸小・中学校の参加はなかったものの、地区の太鼓祭りや千葉南高校吹奏楽部、千葉中央警察署の詐欺防止に関する講話などを実施した。 ・福祉バザーを実施し、地区部会では煮物などの提供を行った。 ・各団体が、盆踊り大会、スポーツ祭り(運動会)を実施した。また、餅つきは希望を縮小し、日程を短縮した上で実施した。	敬老会や各種行事の開催などを通して、地域住民が世代の枠を超えて交流できる機会を創出したい。
3 社会参加の 推進	12 高齢者の地域社会での 福祉活動の促進	・敬老会を実施し、会の中で地域の方が一体となって盛り上げている。 ・地区部会や町内自治会等、地域団体の役員になっている高齢者は、地域行事でスタッフとして活動した。 ・地区部会の見守り隊やお助け隊の協力員として高齢者に参加いただき、その都度課題に対応していただいた。 ・満100歳の方に祝い金を渡しているが、令和5年度も対象者がいなかった。	
	13 障がい者の地域社会での 福祉活動の促進	(No.10と同様)	
4 地域の福祉 力向上、担い手 づくり	14 地域で福祉に関する講 座や研修会等の受講機 会の提供	・地区部会が、介護教室(運動に関すること)を11月に実施した。	
5 相談体制、 情報提供の場 づくり	15 相談体制・情報提供の 充実	・町内自治会長や民生委員が個別の相談対応を行っている。 ・各町内自治会及び民児協より地区部会役員として選任されているため、地区部会の状況や対応内容等、情報がスムーズに流れるよう心掛けている。	
	16 福祉情報紙の充実と「中 央区ふくし・防災ガイド& マップ」の活用	地区部会が、地域福祉に関する情報を住民に提供するため、広報紙を年1回発行している。コロナ禍においても各種行事は行ったものの、今年度も広報紙の発行は見合わせた。	広報紙の発行についての検討などを通して、地域での孤立化の解消を図れるよう努めたい。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 川戸地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
6 福祉教育の推進	17 地域での福祉教育の推進	・地区部会が開催する敬老会には、川戸小学校、川戸中学校の児童・生徒の参加は実現しなかったものの、千葉南高校が高齢者と交流する機会を設けた。 ・PTA・スポーツ振興会主催の餅つきや運動会、地域のサークルと子育てサロン(もーもークラブ)との菊見会、川戸保育園の七夕まつり、中学校の盆踊り等、地域行事を通じて、高齢者と児童の交流を図っている。 ・放課後子ども教室に地域住民が協力している。 ・地区部会が、福祉に関する講座を7月に実施した。	
7 人にやさしい生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・地区部会の見守り隊やお助け隊の協力員から、地域の犯罪被害に関する情報が届くことも多い。 ・町内自治会単位で防犯パトロールや防災訓練を実施した。 ・学校とPTAが、夏休み、冬休み前の年2回、防犯パトロールを実施した。 ・「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。	
	19 防災体制の充実	・町内自治会単位で防犯パトロールや防災訓練を実施した。 ・地区内の3か所の避難所すべてに避難所運営委員会があり、一部を除いて避難訓練を実施した。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 星久喜地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
1 身近なコミュニティづくりの推進	1 地域支えあい連絡会の設置・推進	・地域運営委員会では、地域団体の事業の日程調整を行い、理事会を開催し、共通理解、連携強化に努めた。 ・地域運営委員会のホームページを随時更新し、情報発信に努めた。	地域運営委員会など、地域内の各種団体のそれぞれの強みを活かしながら、地域団体事業日程調整を行い理事会を開催することや、地域運営委員会のホームページを更新し情報発信を行うなど、地域課題の解決に向けて引き続き連携の強化を図りたい。
	2 支え合い活動の仕組みづくり	・主に民生委員は個別の相談対応に当たっている。また、あんしんケアセンターなどにも相談している。	
	3 見守り体制をつくる	・23町内自治会で、高齢者などに対し、各町内自治会の班長が、日常的な目配り、心配りによる安否確認を行い、継続して見守り活動を行っている。 各班長に「見守り協力員の証」を配布し、何か気づいたことがあれば、民生委員や自治会長に連絡する体制を整えている。	
	4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	・地区内にある3か所の避難所全てに避難所運営委員会が設立されており、避難所ごとに訓練を実施した。また、各町内自治会の班長が見守り協力員になっており、日常の見守り活動を災害時にも生かす仕組みとしている。 ・町内自治会単位でも防災訓練を実施した。	
	5 すべての子どもを地域で育てる	・地区部会ボランティア及び青少年育成委員会等が、子どもたちの安全を守るため、毎日の登下校時にセーフティウォッチャー活動を実施した。 ・青少年育成委員会が、長期休暇前の学区点検を実施した。 ・育成委員会と地区部会が共催している書き初め練習会・書き初め展示会を実施し、子どもたちとの交流を図った。 ・育成委員会と公民館共催の「プチ夏祭り」において、スイカ割りや「怖い話」の朗読を実施した。 ・「お泊りイン星久喜」は中止になったが、代替事業として、凧作りと凧あげ大会を開催した。 ・星久喜公民館文化祭において、地域運営委員会が「星フェス」を開催した。 ・スポーツ振興会主催の地域運動会を開催した。	セーフティウォッチャー活動や学区点検活動、各種イベントの実施などを通して、子どもたちが地域で安全かつ健やかに過ごせるような環境づくりに努めたい。
2 交流の場と仲間づくり	6 ふれあい・いきいきサロンの充実	・地区部会が70歳以上の高齢者を対象に、青葉の森公園・都市緑化植物園の散策・クリスマスお楽しみ会などのいきいきサロンを年8回(うち1回は落語)実施し、高齢者の仲間づくりや健康維持に取り組んだ。 ・地域運営委員会で脳トレサロンを前期9回、後期9回開催し、高齢者の認知症やフレイルの予防に取り組んだ。 ・75歳以上の高齢者を対象に、敬老祝賀の会を開催した。	いきいきサロンの実施を通して、地域の高齢者の閉じこもり防止や仲間づくり、社会参加を図る機会を設け、フレイルの予防に努めたい。
	7 地域での健康づくり支援の充実	・スポーツ振興会が中心となって、グラウンドゴルフ大会などを開催した。 ・スポーツ振興会が実施している「ふれあい大運動会」では、高齢者が参加する競技を取り入れた。 ・いきいきサロンでも、青葉の森公園や都市緑化植物園での散策が行われた。 ・青葉の森ラジオ体操会が、青葉の森公園中央広場で、毎朝、ラジオ体操を行った。 ・一部の町内自治会が、あんしんケアセンター松ヶ丘と連携し、介護予防や健康づくりの取り組みを行った。 ・脳トレサロンにおいて、笑いヨガ・体操の時間を設けた。	
	8 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	・育成委員会と地区部会が、令和5年末に書初めの練習会・令和6年の年明けに書初め展示会をそれぞれ開催した。 ・育成委員会と公民館が共催し、凧作り、凧あげ大会を開催した。	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和5年度) 星久喜地区部会

基本方針	取組項目	令和5年度の実績	令和6年度の目標又は予定(案) 重点取組項目のみ記載
2 交流の場と 仲間づくり	9 子育てサロンの充実	地区部会が、子育て中の親子を対象に、年10回都市緑化植物園のお散歩、読み聞かせ、歯科衛生士のお話、栄養士のお話、クリスマスお楽しみ会、七夕等を内容とした子育てサロン「トントルーム」を実施し、仲間づくりに取り組んだ。	子育てサロンの実施を通して、地域の子育て中の親子の孤立化を防止し、仲間づくりの場を設けるよう努めたい。
	10 障がい者との相互理解 と地域住民等との交流 の推進	・公民館文化祭は開催されたが、作業所作品販売がなかったため、障がい者福祉委員会によるお手伝いは中止となった。	地域において障がい者が活動できる機会を設け、障がい者と地域住民が相互理解できるよう努めたい。 公民館文化祭において、作業所作品販売が行われるようであれば、協力を行う予定である。
	11 世代間交流の場の提供	・「バス日帰り旅行」を実施した。 ・公民館文化祭において、地域運営委員会主催で「星フェス」を開催した。	日帰りバス旅行や、地域運営委員会主催の「星フェス」の実施などを通して、地域住民が世代の枠を超えて交流できる機会を創出したい。
3 社会参加の 推進	12 高齢者の地域社会での 福祉活動の促進	・毎朝、星久喜小学校通学路においてセーフティウォッチャー活動を実施した。	
	13 障がい者の地域社会での 福祉活動の促進	・障がい者福祉委員会による「車椅子介護講習会」を実施した。 講習会では車椅子10台を借り、実習を行った。	
4 地域の福祉 力向上、担い手 づくり	14 地域で福祉に関する講 座や研修会等の受講機 会の提供	・障がい者福祉委員会による「車椅子介護」をテーマとした研修会を実施した。	福祉講座の開催を通して、地域住民が地域福祉活動に参加するきっかけづくりの場を設けるよう努めたい。
5 相談体制、 情報提供の場 づくり	15 相談体制・情報提供の 充実	・民生委員や地区部会事業のボランティアが個別の相談対応に当たり、地区部会役員はパイプ役を担った。 ・認知機能の低下を防ぐ効果が期待できることから、脳トレを月2回2会場で開催した。併せて、参加者の相談に対応するため、あんしんケアセンターと連携した。	
	16 福祉情報紙の充実と「中 央区ふくし・防災ガイド& マップ」の活用	・広報紙「ふくし」を年2回発行した。 ・緊急ノートを独居と75歳以上高齢者を対象に配布しており、対象世帯と民生委員がそれぞれ保管している。	
6 福祉教育の 推進	17 地域での福祉教育の推 進	(No.14と同様)	
7 人にやさしい 生活環境づくり	18 防犯対策の推進	・「こども110番のいえ」を実施している(約100軒)。 ・一部の町内自治会では、防犯パトロールを実施した。	
	19 防災体制の充実	(No.4と同様)	